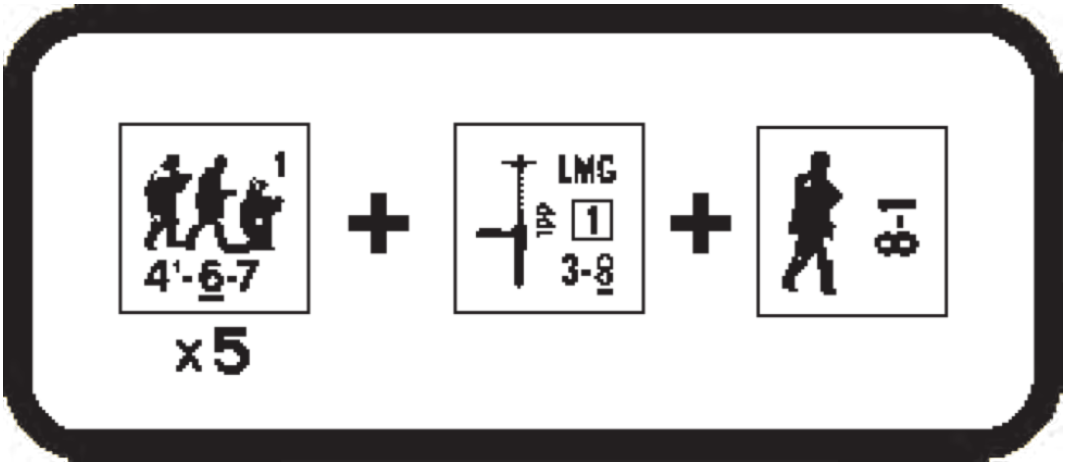



# H章

(Hollow Legions)

## ⅢⅢ イタリア 車両・砲兵器 注釈

# 索 引


イタリア 車両注釈 …… H77
1. L5/21 & L5/30 …… H77
2. L3/35
3. L3 aa
4. L3 cc …… H79
5. L3 Lf
6. L6/40
7. M11/39
8. M13/40
9. M14/41 …… H80
10. M15/42
11. MR/35(f)
12. Semovente M40 & M41 da 75/18
13. Semovente M42 da 75/18 & 75/32
14. Semovente M43 da 105/25
15. Semovente L40 da 47/32
16. Semovente M41M da 90/53 …… H81
17. AS 42, AS 42 aa, & AS 42 cc
18. Lince
19. Lancia 1ZM
20. Fiat 611A & 611B
21. AB 40 & AB 41
22. Autoprotetto S37 …… H82
23. Autocannoni da 20/65(b) & 65/17(b)
24. Autocannoni da 75/27 CK & 90/53
25. TL 37, TM 40, & TP 32
26. Autocarretta …… H83
27. Fiat 508 MC
28. Autocarri L, M, & P

イタリア 砲兵器注釈 …… H84
1. Mortaio da 45 “Brixia” …… H84
2. Mortaio da 81/14
3. Fucile-cc S
4. Cannone-cc da 37/45
5. Cannone-cc da 37/45
6. Cannone da 65/17 …… H85
7. Cannone da 70/15
8. Obice da 75/13
9. Cannone da 75/27
10. Obice da 75/18 …… H86
11. Cannone da 75/32
12. Obice da 100/17
13. Cannone da 105/28
14. Obice da 149/13
15. Cannone da 149/35
16. Cannone da 149/40 …… H87
17. Cannone-mitragliera da 20/65
18. Cannone-aa da 75/39
19. Cannone-aa da 75/46
20. Cannone-aa da 90/53

イタリア 車両一覧表 …… H78
イタリア 砲兵器一覧表 …… H85

イタリア 車両 希少性係数チャート …… H88A
イタリア 砲兵器 希少性係数チャート …… H88B

## イタリア 車両注釈 (ITALIAN VEHICLE NOTES)

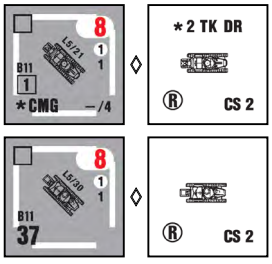
1930 年代後半に、表向きには、イタリア軍は機械化計画へ舵を切った、こう確信していた、本当に装備できたなら迅速かつ果断の勝利を獲得できるだろう、それによって膠着状態とすさまじい犠牲の大戦を回避するだろう。残念ながら、最終的に迫り来る戦いに首を突っ込んでしまっているため、この計画の実施はいくつかの要因によって著しく遅れていた。この要因の中に、基礎原材料の不足があった、相対的に小さな産業基盤だった事と併せて AFV 設計での経験をほとんど持たなかった、1930 年代からの財政逼迫の結果による全般的な資金不足があった、そして、保守主義である特定の上級士官と高級官僚達がいた。1939 年の秋に、軍は約 1,500 両の " 戦車 " を所有していた、でも、それらの圧倒的多数がまったく役立たないわけではない L3 " 豆戦車 " だった。ムッソリーニが 1940 年 6 月に宣戦布告した時、陸軍は準備どころではなかった。軍の戦車総数は約 1,660 両までに増やしただけにすぎなかった、一方で、軍の急速な拡張は広範囲にわたる機材不足を、たとえば自動車輸送のような極めて重要な分野で、ヘルメットといった、ありふれたアイテムに対して起こしていた。そのうえ、11,700 門ほどの 65㎜以上でちゃんと機能する歩兵砲、砲兵砲、そして、AA 砲は、最新式の ( ようするに 1930 年代の ) 砲を 250 門も含んでいなかった — *最新*という残りものは第一次世界大戦の使い古しだった。

規模の小さなイタリア軍需産業は、それに備えて機能する全てをかんがみても膨大な数の AFV を提供できなかった。1940 年 6 月から 1943 年 8 月まで、戦車、SP 砲、そして、装甲車を約 3,300 両しか生産しなかった。最も高い月計はたったの 170 両だけ、その中の 65 両が中戦車だった。ドイツの組み立ている PzKpfw III、IV、そして、V についてイタリアで多少の話し合いがあった — でも、これは数名の高級官僚と実業家の妨害といった多くの理由のため実を結ばなかった。

イタリアの AFV は軽量で、一般的に馬力対重量比が低く、そして、薄い装甲を特徴としていた ( 後者の施策は少なくともある程度、絶え間なく続く資金不足と原材料不足からもたらされている )。装甲板は粗悪で、打撃を受けた時にひび割れする傾向にある、しかも、リベット打ちによる装着、それが完全な一体化をさらに損なうと同時に内部の操作班へのダメージを増やしていた。新たな設計の根本的により優秀な戦車は最優先を認められなかった、軍の保守主義、そして、広範囲な工場の設備一新がもたらす取り戻せない生産高、その両方のせいだった。たとえそうであっても、ムッソリーニは ( 彼は、ヒトラーとは違って、戦車設計で正しい優先すべきものを分かっていなかったし、こうした問題に興味がなかった )75㎜砲を持つ戦車 (P26/40) の開発を指示しなければならなかった、同様に軍もそれについての窮状を全く気づかなかった。依然として、さらに戦闘に効果的な戦車と SP 砲の戦場における不在にもかかわらず、ほぼ終りまで、イタリア AFV の操作班は時代遅れの車両で、どうしようもないほど手に負えない時ですら、勇敢に戦い続けた。

開戦当時、イタリア装軌式 AFV に対する名付けは "X#/#" 型に準じていた。文字は軽 (L ; 5ᵗᵒᵑ以下 )、中 (M ; 8ᵗᵒᵑ越えだが 15ᵗᵒᵑ以下 )、又は重 (P ; 15ᵗᵒᵑ越え )。1 つ目の数字はトンで設計重量を示し、そして、2 つ目は受け入れた年を示した。

*[ 特記 : 全ての連合軍側イタリアの戦闘編成は 1945 年初めにイギリスにより再装備されている。それによって、DYO シナリオその年における設定のため、連合国側のイタリアプレイヤーはイギリス SC/LRC/APC/PC/ トラックを ( ただし、一覧の "Type" に従って )OB がイギリスであるかの様にして購入してよい。プレイヤーはこうした車両を捕獲でない様に扱う。]*

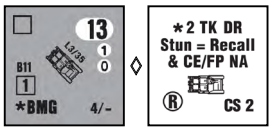



**1. L5/21 & L5/30 :** それぞれが Fiat 3000 A Model 1921( フィアット 3000 1921 年型 ) と Fiat 3000 B Model 1921( フィアット 3000 1921 年型 ) とも知られる、イタリア初のシリーズ生産の戦車だった。それらはフランス ルノーFT-17 をベースにしていたがおびただしい改良を組み込んだ。( それどころか、3000A は 1921 年に世界最速だった。) L5/21 は同軸に据えた 8㎜ MG2 丁を搭載していた、同様に L5-30 の一部もそうだった ; とはいえ、多くの L5/30 は中速の 37㎜砲を搭載して、小隊指揮官と中隊指揮官の戦車とするつもりだった。100 両の L5/21 と 48 両の L5/30 が組み立てられた。公式的には、イタリアはそれらを突撃戦車 (*carri d'assalto*) と呼び、1939 年中頃までずっと第一線の AFV だと思っていた。

L5/21 は 1926 年にサヌーシー教団に向けてリビアで初めて使用された。L5 はエチオピア征服間の 1936 年で戦闘に参加した、それから 1940 年 6 月、どうもいく両かがモンチェニージオ地方のフランス - イタリア国境に沿った攻撃に参加したみたいだ。L5 中隊 2 つが、それぞれ 9 両の戦車で、シシリー島にいた、連合国側がそこに上陸した時だった ; XII 軍団のひとつがトーチカとして埋められて配置されていた、それに対し、XVI 軍団のもうひとつがジェーラの反撃で全滅していた。L5 小隊は戦車 4 両から成っていた。

† WW2 シナリオに対する利用可能性は 40 年 6 月 ( フランス ) と 43 年 7 月 ( シシリー島 ) だけ。

関連項目イタリア車両注釈 A (*L5/21* だけ )

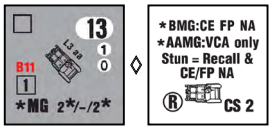



**2. L3/35 :** イギリスのカーデン・ロイド MK VI 豆戦車に原点を持つこの AFV は初めて登場したのは 1933 年だった。オリジナルモデルは CV33(*Carro Veloce*; 高速戦車 ) と呼ばれた、6.5㎜ MG 1 丁だけを搭載していた、でも、後期バージョンは上下に据えた 8㎜ MG 2 丁を備えていた ( だから旧モデルはこのように改造された )。1953 年に CV35 は生産に入った、いくつもの小さな改造を特徴とする ( けれども、両タイプ共にゲーム使用条件で同等である )。1938 年にそれらの名称は L3/33 と L3/35 へ変更された。イタリアが 1940 年 6 月に戦争に加わった時、L3 は間違いなく最もありふれたイタリアの AFV だった、3 個のイタリア機甲師団で 2 個戦車大隊を除く全てに備えられている、その戦車大隊は以下のそれぞれへ割り当てらていた、自動車化師団、各 *Celere* (" 迅速な " ようするに騎兵 ) 師団の ( 大隊に相当する ) 軽戦車隊グループ、及び多数の独立戦車大隊。L3 は多数の愛称を取得していた、その中には *Scatoletta* ( 小さな缶詰 ) と *Cassa da Morto* ( 死の箱 ) があった。2,000 両ないし 2,500 両が ( 全バージョンを含み ) 組み立てられた。小隊は 4 両の車両から構成された。

L3 はある時期に、イタリアの部隊が戦ったほぼ全ての場所で使用された : 35 年 10 月 ～ 36 年 4 月エチオピア征服で ; 37 年 2 月～ 39 年 3 月スペインで (149 両が派遣された ) ; バルカン半島に 1939 年から ; 40 年 6 月フランスにおいて ; 北アフリカで ( そこで 1950 年 6 月に約 320 両が存在していた、全ての機甲部隊をその時点そこで設立している ) ; イタリア領東アフリカで (39 両が 1940 年 6 月に存在していた ) ; 41 年 9 月～ 42 年 1 月のロシアで (the 3rd "San Giorgio"*Gruppo Squadroni Carri L* of the 3rd *Celere* Division[ 第 3 セレル師団の第 3 サンジョルジオ山、戦車戦隊グループ L] と共に ) ; 43 年 7 ～ 8 月シシリー島で ; そしてイタリアで、そこでは 43 年 9 月の休戦後、イタリア・ファシストとドイツにより使用された。1930 年代に輸入された L3 がギリシャ、ハンガリー、そして、中国で使用された。バルカン半島で、捕獲された / 押収された L3 がドイツ、クロアチア、そして、ユーゴスラビアで使用した。

† Date と RF は北アフリカの使用に対し 40 年 6 ～ 12 月 (0.9)、41 年 1 月 (1.1)、41 年 2 月 (1.2)、41 年 3 月 (1.4)、41 年 4 ～ 11 月 (1.2)、41 年 12 月 (1.4)、42 年 1 月 (1.5)、そして、42 年 2 月 (1.6)。東アフリカに対して 40 年 7 月～ 41 年 1 月 (1.3)、41 年 2 ～ 3 月 (1.4)、そして、41 年 4 ～ 6 月 (1.5)。ロシアに対して 41 年 9 ～ 10 月 (1.2)、41 年 11 月 (1.3)、41 年 12 月 (1.4)、そして、42 年 1 月 (1.5)。シシリー島に対して 43 年 7 ～ 8 月 (1.4)、イタリアに対して 43 年 9 月 (1.2)、そして、44 年～ 45 年 5 月 (1.3 ; ファシストの使用だけ )。フランスに対し 40 年 6 月 (1.1)。バルカン半島に対し 40 年 10 月～ 41 年 4 月 (0.9)、41 年 5 月～ 43 年 9 月 (1.1)、そして、44 年～ 45 年 5 月 (1.3 ; ファシストの使用だけ )。

関連項目イタリア車両注釈 A、B、E、N、R。




**3. L3 aa :** 一部の L3 は AA 砲架を指揮官 - 砲手のハッチ前部の上部構造物の屋根上に備えられたいた。AFV の MG のひとつがこの砲架へ動かせることができた、限定的に AA 能力を与えている。実際はともかく、その様に装備される事はそれほど多くはなかったみたいだ。

† 両方の MG は MA として使用して良い、けれども、BMG は HD FP のため MA として扱われる。とはいえ、BMG は操作班が CE である限り使用されてはならない、そして、AAMG は *L3 aa* の VCA の範囲内に位置する目標だけを射撃してよい。それぞれがカウンターに、MA が "MG" として定められて、"BMG: CE FP NA" で、そして、"AAMG: VCA only" で示されている。

## イタリア 車両一覧表（ITALIAN VEHICLE LISTING）

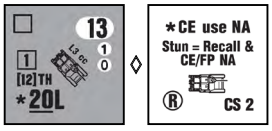
| # | Name & *Type* | ® | WGT | BPV | RF | Dates | Size | AF | TA | OT | CS | MP | GP | GT | MA | ROF | B# | IF | BMG | CMG | AAMG | SA | Am | s# | PP/T# | Notes |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | L5/21 *Tt* | • | 5.5 | 19 | 1.5 | 23-7/43† | +1 | 1 | | | 2 | **8** | L | 1MT | CMG† | 1 | 11 | | | 4 | | | | | | 1†, A†[1] |
| 2 | L5/30 *Tt* | • | 6 | 22 | 1.6 | 30-7/43† | +1 | 1 | | | 2 | **8** | L | 1MT | T37 | | 11 | | | | | | | | | 1† |
| 6 | L3/35 *Tt* | • | 3.5 | 20 | 0.9-1.6† | 34-5/45† | +2 | 1/0 | | | 2 | 13 | L | | BMG†[1] | 1 | 11 | | 4 | | | | | | | 2†, A†[1], B†[1], E, N, R |
| 4 | L3 aa *Tt* | • | 3.5 | 18 | 1.3-1.6† | 34-5/45 | +2 | 1/0 | | | 2 | 13 | L | | MG† | 1 | **11**†[1] | | 2† | | 2† | | | | | 3†, C, E, F†[1], N, R |
| 2 | L3 cc *Tt* | • | 3.5 | 20 | 1.5-1.6† | 6/40-2/41 | +2 | 1/0 | | | 2 | 13 | L | | B20L†[1] | 1 | | | | | | | | | | 4†, E, J†[1], N |
| 4 | L3 Lf *Ttv* | • | 5 | 48 | 1.2-1.6† | 36-41† | +2 | 1/0 | | | 2 | 12 | L | | **BF32** | | **B/X11**† | | 2† | | | | | | | 5†, E, N |
| 6 | L6/40 *LT* | | 7 | 28 | 1.6-1.2† | 4/41-5/45† | +1 | 3/1 | +F | | 2 | 14 | L | 1MT | T20L | 1(4) | 11 | | | 2 | | | | | | 6†, N, R |
| 6 | M11/39 *MT* | • | 11 | 29 | 1.2-1.6† | 39-6/41† | +1 | 3/1 | | | 3 | **12** | | 1MT | CMG†[1] | 1 | 11† | | | 4 | | B37 | | | | 7†, A†[1], N |
| 12 | M13/40 *MT* | • † | 14 | 34 | 1.0-1.6† | 12/40-5/45† | 0 | 3 | | | 4 | **11** | | RST | T47 | 1 | | | 4†[1] | 4 | Opt2†[2] | | | | | 8†, B†[1], C†[2], N |
| 6 | M14/41 *MT* | | 14 | 36 | 1.0-1.5† | 42-5/43 | 0 | 3 | | | 4 | 12 | | RST | T47 | 1 | | | 4†[1] | 4 | Opt2†[2] | | | | | 9†, B†[1], C†[2], N |
| 6 | M15/42 *MT* | | 15 | 39 | 1.2-1.4† | 9/43-5/45 | 0 | 3 | +F | | 4 | 13 | | RST | T47L | 1 | | | 4†[1] | 4 | Opt2†[2] | | | | | 10†, B†[1], C†[2] |
| 5 | MR/35(f) *MT* | | 10 | 27 | 1.2-1.4† | 7-8/43 | +1 | 4 | +FSR | | 2 | 8 | L | 1MT | T37* | | | | | 2†[1] | †[1] | | | | | 11†, I†[1] |
| 6 | Semovente M40 da 75/18 *AG* | | 14 | 35 | 1.4 | 1-11/42 | +1 | 3 | +F | | 3 | **11** | | NT | B75* | | **11**† | | | | Opt2†[1] | | H7[S2+]†[2] | 8 | | 12, C†[1], F†, H†[2], N |
| 6 | Semovente M41 da 75/18 *AG* | | 14.5 | 36 | 1.3-1.6† | 1/42-5/45† | +1 | 3 | +F | | 3 | 12 | | NT | B75* | | 11 | | | | Opt2†[1] | | H7[S2+]†[2] | 8 | | 12†, C†[1], H†[2], N |
| 4 | Semovente M42 da 75/18 *AG* | | 15 | 37 | 1.1 | 9/43 | +1 | 3 | +F | | 3 | 13 | | NT | B75* | | 11 | | | | 2† | | H7 | 8 | | 13, C† |
| 2 | Semovente M42 da 75/32 *AG* | | 15 | 41 | 1.5-1.6† | 9/43-5/45† | +1 | 3 | +F | | 3 | 13 | | NT | B75 | | 11 | | | | 2†[1] | | H7 | 8 | | 13†, C†[1] |
| 2 | Semovente M43 da 105/25 *AG* | | 15.5 | 47 | 1.6 | 9/43 | +1 | 8/3 | +SR | | 4 | 13 | | NT | B105 | | 11 | • | | | 2† | | H7 | 8 | | 14, C† |
| 4 | Semovente L40 da 47/32 *TD* | | 6.5 | 29 | 1.6-1.2† | 7/42-5/45† | +2 | 3/1 | | • † | 3 | 14 | L | NT | B47 | 2 | | | | | | | | | | 15†, N[T], R |
| 4 | Semovente M41M da 90/53 *TD* | | 16 | 32 | 1.3-1.6† | 7-8/43† | +1 | 3/3/★ | +F | • † | 5 | **10** | | NT | B90L†[1] | 1 | 9† | | | | | | HE7 | | | 16†, D†[1] |
| 2 | AS 42 *SC*† | | 4.5 | 27 | 1.5-1.4† | 11/42-5/45† | +1 | ★ | | | 3 | 34†[1] | L | | AAMG | 1 | 11 | | | | 4 | | | | 9PP | 17†, L†[1], M, N |
| 2 | AS 42 aa *SC*† | | 4.5 | 35 | 1.6-1.5† | 11/42-5/45† | +1 | ★ | | | 4 | 34†[2] | L | T | T20L†[1] | 3(4) | | | | | 4 | | | | | 17†, G†[1], L†[2], M, N, AA†[1] |
| 2 | AS 42 cc *SC*† | | 4.5 | 30 | 1.6-1.5† | 11/42-5/45† | +1 | ★ | | | 4 | 34†[2] | L | T | T20L†[1] | 2 | | | | | 4 | | | | 5PP | 17†, G†[1], J†[1], L†[2], M, N |
| 2 | Lince *SC* | | 3 | 28 | 1.6 | 44-5/45 | +2 | 4/1 | +F | | 2 | 35 | L | | BMG | 1 | | | 2 | | | | | | | 18, E |
| 4 | Lancia 1ZM *AC* | • | 4 | 26 | 1.4-1.5† | 17-6/41† | 0 | 0 | | | 6 | 19[L]†[1] | H | ST | CMG†[2] | 1 | **11**†[3] | | –[R4]†[3] | 8 | | † | | | | 19†, A†[2], F†[3], M†[1] |
| 2 | Fiat 611A *AC* | • | 7 | 25 | 1.5-1.6† | 35-6/41† | -1 | 0 | +F | | 5 | 12[L]†[1] | H | ST | CMG†[2] | 1 | **11**†[3] | | –[R4]†[3] | 8[R2] | | | | | | 20†, A†[2], F†[3], M†[1] |
| 2 | Fiat 611B *AC* | • | 7 | 24 | 1.5-1.6† | 35-6/41† | -1 | 0 | +F | | 5 | 12[L]†[1] | H | ST | T37 | 2 | **11**†[2] | | –[R2]†[2] | –[R2] | | | HE7 | | | 20†, F†[2], M†[1] |
| 4 | AB 40 *AC* | | 7 | 27 | 1.6 | 41 | 0 | 1 | | | 4 | 29 | | 1MT | CMG† | 1 | 11 | | –[R2] | 4 | †[1] | | | | | 21, A†, I†[1], N |
| 6 | AB 41 *AC* | | 7.5 | 29 | 1.5-1.3† | 8/41-5/45† | 0 | 1 | +F | | 4 | 30 | | 1MT | T20L | 1(4) | 11 | | | 2 | | | | | | 21†, N, R |
| 2 | Autoprotetto S37 *APC* | | 5.5 | 25 | 1.4-1.6† | 10/42-5/45† | +1 | 1 | | • | 4 | 21† | L | | AAMG | 1 | | | | | 2 | | | | 11PP | 22†, R |
| 4 | Autocannone da 65/17(b) *SPAtr* | | 3 | 30 | 1.5-1.6† | 11/41-5/43 | +1 | ★ | | | 4 | 23[t] | | T | T65*†[1] | 1 | 11 | | | | Opt2† | | H7[S2+]†[2] | | | 23†, G†[1], H†[2], N |
| 4 | Autocannone da 20/65(b) *AAtr* | | 3 | 29 | 1.6† | 11/41-5/45 | +1 | ★ | | | 4 | 23[t] | | T | T20L†[1] | 3(4) | | | | | † | | | | | 23†, G†[1], N, R, AA† |
| 4 | Autocannone da 75/27 CK *AAtr* | | 7 | 27 | 1.5-1.6† | 28-11/41 | 0 | ★ | | | 4 | 12[t] | H | T | T75*† | | 11 | | | | †[1] | | AP7 | | | 24, D†, N, AA†[1] |
| 4 | Autocannone da 90/53 *AAtr* | | 12 | 53 | 1.4-1.6† | 5/42-8/43† | -1 | ★ | | | 4 | 15[t] | | T | T90L† | 2 | | | | | †[1] | | | | | 24, D†, N, AA†[1] |
| 4 | TL 37 *tr* | | 3.5 | 11 | 1.2-1.6† | 38-5/45† | +1 | ★ | | | 5 | 16†[1] | L | | | | | | | | | | | | 9PP†/T6 | 25†, L†[1], M, N, R |
| 4 | TM 40 *tr* | | 7.5 | 12 | 1.3-1.6† | 40-5/45† | 0 | ★ | | | 5 | 18†[1] | L | | | | | | | | | | | | 9PP†/T4 | 25†, L†[1], M, N, R |
| 4 | TP 32 *tr* | | 8.5 | 11 | 1.4-1.6† | 33-11/43† | 0 | ★ | | | 5 | 12†[1] | L | | | | | | | | | | | | 9PP†/T-4 | 25†, L†[1], M, N, R |
| 4 | Autocarretta *tr* | | 2.5 | 10 | 1.1-1.2† | 8/41-5/45† | +1 | ★ | | | 5†[1] | 16[t] | | | AAMG | 1 | 11 | | | | Opt4† | | | | 9PP†/T10 | 26†, K†[1], N, R |
| 4 | Fiat 508 MC *tr* | | 1 | 10 | 1.3 | 39-5/45† | +2 | ★ | | | 2†[1] | 31[t] | † | | AAMG†[2] | 2 | 11 | | | | Opt6† | | | | 9PP† | 27†, A†[2], K†[1], N, R |
| 6 | Autocarro Leggero *tr* | | 4.5 | 12 | 1.3-1.6† | 30-5/45† | 0 | ★ | | | 6 | 20[t] | | | | | | | | | | | | | 21PP | 28†, N, R |
| 6 | Autocarro Medio *tr* | | 7.5 | 14 | 1.3-1.6† | 30-5/45† | 0 | ★ | | | 7 | 18[t] | | | | | | | | | | | | | 29PP | 28†, N, R |
| 6 | Autocarro Pesante *tr* | | 11 | 15 | 1.3-1.6† | 33-5/45† | -1 | ★ | | | 7 | 15[t] | H | | | | | | | | | | | | 36PP | 28†, N, R |

†この AFV が一つ、又は複数の Malfunction(故障)/Disabled(修理不能) カウンターで表示された場合、所有するプレイヤーは実質的に MG2 つの位置を切り替えてもよい。プレイヤーは自身の MPh の開始時に AFV を TI カウンターで表示する事でこれを行う、ただし次の条件が付く、現在のプレイヤーターンで射撃されず、そしてまた MP 消費もされず、機動中でなく、また混戦でもない、そして、それの固有の操作班は CE であるか、又は CE になる。これら全ての条件がさらに APh 間に満たされた場合、プレイヤーはその時 ある MG の Malfunction(故障)/Disabled(修理不能) カウンターをもうひとつの MG へ交換してもよい。

例：*L3 aa* は故障した AAMG があると想定する。上で記述されたルールが処理されて、条件がさらに APh に満たされた場合、所有者はその時点で、AAMG Malfunction カウンターを取り去って BMG Malfunction カウンターに取り換える。

† RF は常に ( 期日と区域に ) 一致する *L3/35* の RF より 0.4 高い (1.6 まで )。

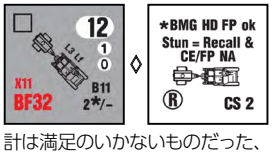
関連項目イタリア車両注釈 C、E、F、N、R。




**4. L3 cc：**戦争の最初の数ヶ月間で、わずかな L3 がリビアで改造されて MG を Solothurn( ゾロターン )20㎜ ATR に取り換えられた。この組み合わせは AFV の AT 能力を高めるだけでなく ATR の機動性、そして、さらに操作班の生存可能性も高めた。全ての L3 cc はコンパス作戦、40 年 12 月～ 41 年 2 月のイギリスの反攻中に失われたみたいだ。

† RF は 1940 年に 1.5、そして 1941 年に 1.6。

関連項目イタリア車両注釈 E、J、N。



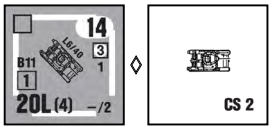

**5. L3 Lf：**L3 として火炎放射器 (*lanciafiamme*) 形態の開発が 1935 年に始まった。火炎ノズルが AFV の MG のひとつと取り換えられ、そして、FT 燃料が軽装甲牽引車で運搬されていた。牽引車の設計は満足のいかないものだった、しかしながら、まもなくして新たなバージョンの L3 Lf が、エンジンルームの上に奥行きのない箱状のタンクで運搬された FT 燃料と共に登場した。( でも、どうも新型はあまり戦闘に参加しなかったみたいだ。)L3 Lf は 1936 年 4 月中にエチオピアで初めて戦闘に参加した。スペイン内乱、その後フランスに、バルカン半島、北アフリカ、そして、イタリア領東アフリカにいた。1941 年以降、使用され続けた L3 Lf の例は、どうやら重要な戦闘で 2 度と目にしなかったみたいだ。各 L3 大隊が L3 中隊ごとに (L3 Lf 4 両の ) 火炎放射器小隊 1 つを認可されていた；とはいえ、騎兵隊グループは FT バージョンを使用しなかった。どれくらいの L3 Lf が組み立てられたのかは分からない、けれども、L3 の別形態が最も多くあった。一例としてイギリスによって捕獲された牽引車バージョンは評価のためイギリス本国へ送られ、そして、おそらく、チャーチルクロコダイル ( イギリス車両注釈 38) にとって刺激になったみたいだ。

† B11 は BGM に適用される；X11 は FT に適用される。BMG は車両が HD である間に射撃してよい — だから、"BMG HD FP ok" でカウンターに示されている。

† 牽引車の AF は 0。自発的の切り離 ( 脱架 ) してよいのは自身の MPh の開始時だけ — でも、次の様な場合に限られる、AFV が機動中でなく、混戦でもなく、直前の PFPh で射撃しなかった、そして、固有の操作班は CE である / になる 場合。これらの条件の下で、脱架はそれを告知することで、遅延で 6MP を使い成し遂げられる、それから *L3 Lf* カウンター を AAMG Desabled(修理不能) カウンターで表示された *L3 aa* へ取り換えられる；その時、AFV は自身の MPh を完了する。

† Date はフランスでの使用対し 40 年 6 月、北アフリカに対して 1940 年 6 月から 41 年、東アフリカに対し 40 年 7 月～ 41 年 6 月、そして、バルカン半島に対し 40 年 10 月～ 41 年 4 月。RF は常に L3/35 の ( 期日と区域と ) 一致する RF より 0.3 高くなる ( 最大 1.6)。

関連項目イタリア車両注釈 E、N。

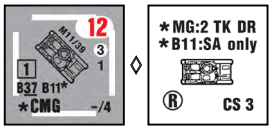



**6. L6/40：**騎兵と偵察任務で L3 と入れ換えるために設計された、L6 は多くを改造した L3 の車台をベースに、後期の 2 人操作班のまま一方で増えた火力、防御、そして、機動性をもたらしている。使用を認められたのは 1940 年初めだった、1939 年にかろうじて事足りる偵察戦車であったのではあるが。1942 年に一般に使用される状況になるまでに、どうしようまないほど時代遅れになった、だから、283 両が組み立てられた後に、生産は Senivebte( セモベンテ )L40 47/32 の為に取り消しされた。火炎放射器バージョンの L6/40 は開発されたが使用されなかった。

L6/40 は機甲師団と自動車化師団の RECo(*Raggruppamento Esplorante Corazzato*；*機甲偵察戦車部隊* ) で認可された、そして、さらにいくつかの独立偵察部隊で使用された。合計 72 両が北アフリカへ送られた。55 両がロシアに向かい、そこで*第 3 セレル師団* LXVII *ベルサグリエリ装甲自動車化大隊*に装備された；それらはその前線で使用された 1 番重いイタリアの完全装軌式 AFV だった。ユーゴスラビアで、L6/40 は第 1 セレル師団の " サン・ジュスト " 軽戦車中隊により使用された。一部がイタリアで 1943 年 9 月間で戦闘に参加した、それ以降はイタリアファシストとドイツによって使用された。ドイツはそれらをバルカン半島でも使用した、でも、所有した車両の多くがクロアチアへ輸出された。ユーゴスラビアのパルチザンもまた、わずかな捕獲した L6 を使用した。イタリアの使用における L6/40 小隊は AFV 4 両からなる。

† Date と RF は北アフリカの使用に対し 1941 年 12 月～ 42 年 6 月 (1.6)、42 年 7 ～ 9 月 (1.4)、42 年 10 ～ 11 月 (1.5)、42 年 12 月～ 43 年 1 月 (1.6)、そして、43 年 2 ～ 5 月 (1.5)。ロシアに対し 42 年 2 ～ 6 月 (1.3)、42 年 7 ～ 8 月 (1.2)、そして、42 年 9 ～ 12 月 (1.3)。ユーゴスラビアに対し 41 年 4 月 (1.3)、、そして、41 年 5 月～ 43 年 9 月 (1.5)、イタリアに対し 43 年 9 月 (1.3)、そして、44 年 ～ 45 年 5 月 (1.4；ファシストの使用だけ )。

関連項目イタリア車両注釈 N、R。

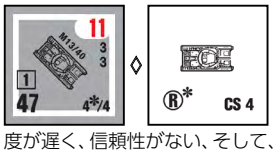



**7. M11/39：**この戦車は 2 丁の 8㎜ MG を持つ小型砲塔を、さらに中初速の 37㎜砲を右前部の上部構造物を搭載していた。それは機甲師団の中戦車大隊の標準戦車の代わりだった、けれども、据付けられたわずかな旋回の砲位置が狭い視野を物語った、だからすぐに適切な砲塔に据付けた砲の着想が賛同を得た。その結果として、100 両だけが組み立てられた。24 両がイタリア領東アフリカへ送られたそこで、中戦車特殊中隊 (*Compagnia Speciale Carri M*) として、東アフリカ機動部隊 (*Raggruppamento Corazzato Africa Orientale*) で使用された。I と II 中戦車大隊 (*Battaglione Carri M*) を構成する他の 70 両はリビアへ 1940 年の夏に送られた — でも 1941 年 2 月の初めまでに、すべて 70 両はイギリスによって撃破されるか捕獲された。4 両の戦車が M11/39 小隊を構成していた。

† B11 が 37 SA にだけ適用される — "B11: SA only" でカウンターに示されている。全ての 1MT(D1.322) ペナルティーが CMG MA へ適用される、そしてそれは車体据付けの NT 37 SA に関係なく 360° 旋回がある。

† Date と RF は北アフリカの使用に対し 40 年 8 ～ 12 月 (1.2)、41 年 1 月 (1.4)、そして、41 年 2 月 (1.6)。東アフリカに対し 40 年 7 月～ 41 年 1 月 (1.4)、41 年 2 ～ 3 月 (1.5)、そして、41 年 4 ～ 6 月 (1.6)。

関連項目イタリア車両注釈 A、N。

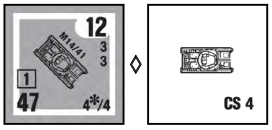



**8. M13/40：**期待外れの M11/39 と入れ替わったのが M13/40 だった、そしてそれは M11 の主な機械的特徴を保持していたが全周旋回する砲塔にもっと強力な砲を搭載していた。主な欠点は速度が遅く、信頼性がない、そして、2 人用砲塔、その中で指揮官は砲手として 2 役だった。それにもかかわらず、1941 年に、中戦車大隊の数が伸び続ける中での標準的な装備となった、しかも、たぶん WW2 の最も有名なイタリア戦車であろう。初めて戦闘に参加したのは第 III 中戦車大隊一員としてリビアのソラム・ハルファヤ区域でだった、それ以降、北アフリカの *132○ "Ariete" Divisione Corazzata*( 第 132" ラム " 機甲師団 ) に装備された。M13/40 は第 131"Centauro"( ケンタウロス )、及びギリシャ - ユーゴスラビア作戦で 1941 年 2 ～ 4 月の間で第 133"Littorio"( 束桿(そくかん)の束 ) 機甲師団の一員としても戦闘に参加していた。1941 年初めの短い期間で、リビアのあるイギリスの機甲連隊 ( 第 6 RTR) が捕獲した M13/40 で装備されていたがロンメルの最初の攻勢で全てを失った。1943 年 9 月に、22 両がドイツにより押収され、その後でファシストイタリアへ引き渡された。いくつかの情報源が生産された M13/40 の総数に関し一貫していない、後に M14/41 として改造されているためだ；あるものは 1,049 両と言う数を延べ、一方で 710 両だったと主張する、でも、一番よく告げられた数字は 785 両である。M13/40( 又は M14/41) の小隊は戦車 4 両から成った、5 両は認可された時の 1941 年 8 月後半までだった。

† この AFV は 41 年 11 月より前に (D14. を参照 ) 設定されたシナリオで無線機が無かった。41 年 11 月の設定では、無線機を装備している。

† Date と RF は北アフリカの使用に対し 40 年 12 月 (1.3)、41 年 1 月 (1.2)、41 年 2 月 (1.0)、41 年 3 月 (1.5)、41 年 4 ～ 5 月 (1.3)、41 年 6 ～ 11 月 (1.5)、41 年 11 月～ 42 年 6 月 (1.0)、42 年 7 月 (1.1)、42 年 8 ～ 11 月 (1.2)、そして、42 年 12 月 (1.6)。バルカン半島に対し 41 年 1 ～ 4 月 (1.3)、そして、41 年 5 月～ 43 年 9 月 (1.6)。イタリアに対し 43 年 9 月 (1.6)、そして、44 年～ 45 年 5 月 (1.6;ファシストの使用だけ )。

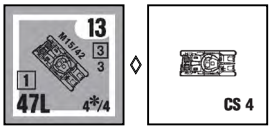
関連項目イタリア車両注釈 B、C、N。




**9. M14/41：**1941 年の後半で生産に入ったこの戦車、実際には、とある改造をした M13/40 で馬力を増やして砂漠での信頼性を高めていた。M14/41 は北アフリカでのみ戦闘に参加していた、"リトリオ" の戦車大隊と " チェンタウロ " 機甲師団に装備されている — でも最初に戦闘に向かったのは 101" トリステ " 自動車化師団 XI 中戦車大隊の一員としてだった、それは北アフリカに M13/40 と M14/41 の混成で到着していた。情報源は生産された M14/41 の数について異なる、695 両から 895 両の範囲にわたる — 後者は最も一般的に述べられた数字になる。たった 1 両だけがドイツにより 1943 年 9 月に押収された。

† RF は 42 年 1 ～ 6 月で 1.2、42 年 7 ～ 11 月で 1.0、42 年 12 月～ 43 年 1 月で 1.5、そして、それ以降 1.1。

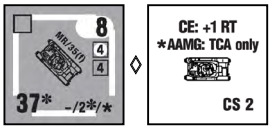
関連項目イタリア車両注釈 B、C、N。




**10. M15/42：**この M13 シリーズの最後のバージョンは、以前のモデルよりも車長がちょと長くて高初速の砲、さらに力強いエンジン、そして、改良された装甲が特徴だった。112 両が Semovente( セモベンテ )M42 da 75/18 に切り替る前に組み立てられた、そして、その数のうち 82 両が 1943 年 9 までに支給されていた。イタリア軍による戦闘における唯一の使用はその同月にドイツ軍に対してだった — 特に第 135" アリエテ II" 機甲師団によってローマとその周辺でだった。後にドイツは 92 両を押収して 1944 年に別の 28 両の生産 ( ドイツ車両注釈 28 を参照 ) を取り仕切った。その一部がイタリアファシストへ渡った。ドイツは砲塔に 20㎜砲 4 門を搭載した M15/42 をベースにした試作の AA 戦車もまた押収した；幾つかの情報源は、これがヴィルベルヴィント ( ドイツ車両注釈 86 を参照 ) への着想をドイツに与えたと言っている。M15/42 の小隊はこうした戦車 5 両からなる。

† Date と RF は 43 年 9 月 (1.2)、そして、44 年～ 45 年 5 月 (1.4;ファシストの使用だけ )。

関連項目イタリア車両注釈 B、C。



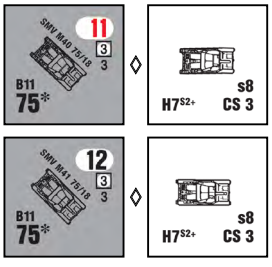

**11. MR/35(f)：**ドイツは多数の 1941 年～ 42 年の前フランスの装備をイタリアに提供した、その中の一番重要だったものが 124 両のルノー R35 戦車だった。イタリアはそれらに無線機を取り付けて MR/35 と名称を変えた。それらは CI と CII 中戦車大隊の形態で使用された、その両方がシシリー島で全滅した 1943 年の夏だった。

† CE DRM は間接射撃に対し＋ 1 、当然、それは*砲塔*の後方目標向きの範囲内で起きた直接射撃に対しても — だから、"CE: +1RT" とカウンターに示されている。

† 名称の " f " は ESB などのため " フランス製 " を表わしている

† RF は 43 年 7 月で 1.2、そして、43 年 8 月で 1.4。

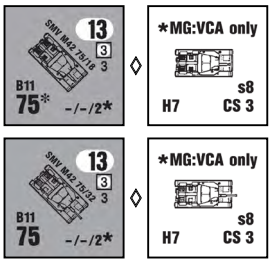
関連項目イタリア車両注釈 I。




**12. Semovente M40 & M41 da 75/18：**III 号突撃砲 ( ドイツ車両注釈 33) により誘因された、イタリアは類似 AFV を設計した、1941 年初めに M13/40 の車体と車台を、箱形の上部構造物と 75/18 榴弾砲と共に使用している。たぶん 60 両がその年の後半に M14/41 戦車をベースにして、162 両が指示された、同じ車両へ切り換えられるまでに組み立てられたようだ。StuG III とは違い、SMV75/18 は中戦車部隊のため支援と側面防護を提供するつもりだった。他にも、たびたび TD としての活動を押しつけられた、M13、及び M14 と比べてその装甲はいくらかは厚く、砲はより長距離射程を持ったいたからだ。2 つの SMV 75/18 砲兵隊 (*Gruppi Semoventi* 75/18：セモベンテ 75/18 グループ ) が各装甲師団の砲兵連隊へ割り当てられていた、そして、同じ様にして存在した多数の独立 *Gruppi( グループ )* にも割り当てらていた。それぞれが、1 部隊 4 両の ( 時折 6 両の )SMV の 2 つの (1943 年に時折 3 つの ) 砲兵隊を含んでいた。

† *SMV M41 75/18* の Date と RF は北アフリカの使用に対し 42 年 1 ～ 6 月 (1.5)、42 年 7 ～ 11 月 (1.3)、42 年 12 月～ 43 年 1 月 (1.5)、そして、43 年 2 ～ 5 月 (1.3)。イタリアに対し 43 年 9 月 (1.6)、そして、44 年～ 45 年 5 月 (1.6；ファシストの使用にだけ )。

関連項目イタリア車両注釈 C、F(*SMV M41 75/18* だけ )、H、N。

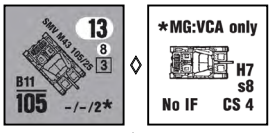



**13. Semovente M42 da 75/18 & 75/32：**最後のモデルである SMV 75/18 は、1942 年 10 月に指示され、M15/42 戦車をベースにして新型の 75/34 砲を搭載するつもりだった。だがしかし、1943 年 3 月までにこの砲はまだ開発中だった、だから、75/18 榴弾砲をしばらく組込むことにした。*Gruppi Semoventi*( 自走式グループ ) だけに備える代わりに、SMV M42 75/18 数両が 1942 年の暮れにこれら部隊編成表に準じて戦車大隊へ支給された、新たな TO&E( 編成と装備表 ) はこうした 1 個中隊に SMV 75/18 の 2 個中隊を加えて構成されていた。1943 年 9 月に、SMV M42 75/18 はイタリアでドイツに対して戦闘に参加した、ドイツは後にかなりの数の SMV M42 75/18 を押収した ( ドイツ車両注釈 39 参照 )。生産された SMV M42 75/18 のはっきりした数は分からない、けれども、250 両が ( ドイツがイタリアを占領した間に組み立てたものも含む ) 一般に認められた概算である。

1943 年中頃に、約 25 両の AMV M42 が 75/32 野砲バージョンを据付けた。この年の 9 月、ローマ地区で第 135" アリエテ II" 機甲師団の部隊として戦闘に参加した、後にかなりの数がドイツによって押収されてファシストイタリアへ引き渡された — 1 部の SMV 75/34 も同様だった ( ドイツ車両注釈 40 を参照 )。

† *SMV M41 75/32* の Date と RF は 43 年 9 月 (1.5)、そして、44 年～ 45 年 5 月 (1.6；ファシストの使用にだけ )。

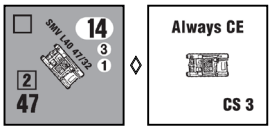
関連項目イタリア車両注釈 C。




**14. Semovente M43 da 105/25：***Bassotto*( ダックスフント ) の愛称があった、SMV 105/25 は WW2 におけるイタリア設計で最強の AFV だった。初めは P26/40 重戦車の車体と車台で組み立てるつもりだった ( ドイツ車両注釈 29 を参照 )、でも、後者の開発遅延により、多くの改造バージョンであった M15/42 が代わりに利用された。どうもイタリア戦の使用はローマ防衛で第 135" アリエテ II" 機甲師団の第 235AT/SPA 連隊 *DCI Gruppo Semoventi*(DCI セモベンテ・グループ ) の一員としてだけのようだ。SMV 105/25 の砲兵隊は 4 両のこうした AFV から構成されていた。約 3 ダースが休戦までに組み立てられた。関連項目ドイツ車両注釈 41。

思い描かれていた事は、最新の AFV が数の上で利用可能になると直ちに SMV 75/34 は TD として使用され、同時に SMV 105/25 が近接支援を P26/40( ドイツ車両注釈 25 を参照 ) 戦車部隊に対し提供するだろう。SMV 105/25 は対砲兵射撃にも使用されるだろう、一方で旧式 ( そして、短射程 ) の SMV 75/18 は歩兵支援に移管されるだろうと言うことだったようだ。

関連項目イタリア車両注釈 C。



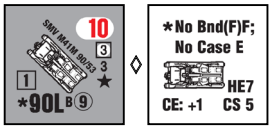

**15. Semovente L40 da 47/32：**SMV 47/32 は L6/40 からの派生で、47㎜砲の機動性を高めるためだった。それは主に SMV 47/32 砲兵隊 (*Gruppi Semoventi* 47/32) で TD として使用された、でもたいてい、凡庸な AT 性能の結果により歩兵支援へ移管されていた。装甲自動車化師団の RECo(*Raggruppamento Esplorante Corazzato*；機甲偵察機動部隊 )9 個中隊が認可されていた、同様に、とある 1943 年式歩兵師団の NEC

(*Nucleo Esplorante Celere*；第 1 偵察グループ ) の 2 個小隊もだった。ロシア ( 第 3 チェレーレ師団の *XIII Gruppo Semoventi 47/32*)、チュジニア、シシリー、そして、イタリアで戦闘に参加した。少なくとも 78 両がドイツにより押収された、ドイツは手元にわずかを残し、数両をファシストイタリアへ引き渡し、残りをクロアチアへ輸出した。約 300 両が組み立てられた、1 個小隊はこうした AFV 4 両から成った (NEC に 2 両 )。

† 固有の 操作班はイギリスのキャリア (D6.84) と同じ方法で ( これが必要とする全てで ) 常に CE になる ― だから、"Always CE" でカウンターに示されている。

† Date と RF はロシアでの使用に対し 42 年 7 ～ 8 月 (1.5)、42 年 9 ～ 12 月 (1.6)、チュニジアに対し 42 年 12 月～ 43 年 5 月 (1.2)、シシリー島に対し 43 年 7(1.3)、そして、43 年 8 月 (1.4)。イタリアに対し 43 年 9 月 (1.4)、そして、44 年～ 45 年 5 月 (1.5；ファシストの使用にだけ )。

関連項目イタリア車両注釈 N、R。



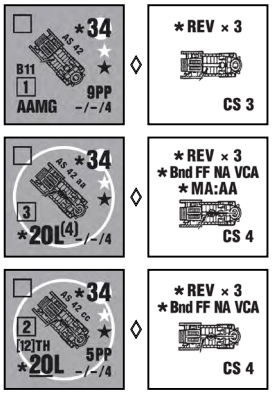

**16. Semovente M41M da 90/53：**この AFV は車長を伸ばした M14/41 の車体と車台の後部に据付けた 90㎜ AA 砲 ( イタリア砲兵器注釈 20)、同時に車両後部から前の中央位置へ移されていたエンジンから構成されていた。大急ぎで設計され 1942 年初めに生産に入ったが、大きな砲が車台とエンジンに過大荷重を掛けているために、その製造は指示された 30 両の車両だけが完成した後に休止された。もう一つの欠陥は弾薬庫用の空間が無かった、たったの 6 発しか SMV に載せられなかった；その結果として、戦闘では無砲塔の L6/40 弾薬運搬車を伴っていた。あれこれ考えられていたけれども、具体的には東部戦線での AT 用途のため組み立てられた、それらの信頼性の欠如の結果により 1 両たりともそこへ送られなかった。代わりに、24 両がシシリー島へ派遣された 1943 年 6 月までイタリアに残されていた第 10*Raggruppamento Semoventi*( 自走式グループ )(CLXI、CLXII、そして、CLXIII グループを含む ) を形づくった。それらは U.S. 第 7 軍に向けリカータ地方で戦った、そこで 2 両を除く全ての SMV 90/53 が失われた。残った 2 両は結局メッシーナで放棄された。取り残された何両かが、後に占領されたイタリアでドイツによって使用された。SMV 90/53 の砲兵隊は 4 両のこうした AFV に 4 両の弾薬車両を加えて構成された。

† たいてい操作班が砲を使う間 AFV の外側背後で実際に立っていた。それゆえに、TH 事例 E を使用できない ( ようするに、確認済み敵ユニットがその区域を占有していた場合、全く射撃できない )、だから、CE であるための +1DRM だけを受ける (DRM が無いのは非装甲目標向きを通して攻撃された場合である ) だから、"No Case E" と "CE: +1" でカウンターに示されている。

† 弾薬車両 (E10.) は SSR か DYO のため必要とされる時、*SMV 47/32* を使用する。この弾薬車両は砲を全く与えられていない (Gun Disabled カウンターを乗せる )；代わりにその MA は 2-FP AAMG(1 ROF；B11) になる、それは VCA の範囲内に位置する目標にだけ射撃してよい。(AA カウンターを乗せて AAMG を示す。) やはり赤の CS# を与えられる。

† RF はシシリー島での使用に対し 43 年 7 月で 1.3、42 年、そして、43 年 8 月で 1.6。

関連項目イタリア車両注釈 D。

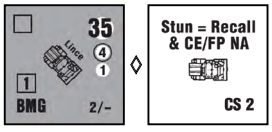



**17. AS 42, AS 42 aa, & AS 42 cc：**AS 42(AS は *Autosahariana：サハラ車*を表わす )AB 41 装甲車を由来としていた、後者とは違って、非装甲で後部操縦席が無かった。具体的に言えば、北アフリカで長距離偵察のため設計された、ほぼ 500 マイル ( 約 805㎞ ) の優れたオフロード航続距離を持っていた。それは *Camionetta Desertica mod. 42* ( 砂漠兵器運搬車 1942 年式 ) としても知られていた、そして、*la Sahariana* ( サハラ砂漠の ) の愛称で呼ばれていた、そして、異なる 3 つのバージョンがゲームに入れられた。AS 42 は北アフリカ、シシリー島、そして、イタリアで戦闘に参加した。終戦後、数両がファシストイタリアにより、そして、ドイツにより ( 東部戦線とバルジの戦いを含む ) 使用された。全べて引っくるめて、約 200 両が組み立てられた。

† *AS 42* の全バージョンが歴史的役割に敬意を示して Scout Car( 偵察装甲車 ) と名付けた、とはいえ、実質的にトラックとみなされる。*[ 例外：イタリア車両注釈 L を参照 ]*。

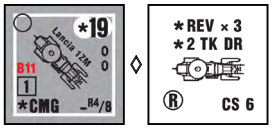
† *AS 42* の Date と RF は北アフリカでの使用に対し 42 年 11 ～ 12 月 (1.5)、そして、43 年 1 ～ 5 月 (1.4)、シシリー島に対し 43 年 7 ～ 8 月 (1.4)、イタリアに対し 43 年 9 月 (1.4)、そして、44 年～ 45 年 5 月 (1.5；ファシストの使用にだけ )。*AS 42 aa* と *AS 42 cc* の Date と RF は同じである、でも RF へ 0.1 加える点が異なる。

関連項目イタリア車両注釈 G (*AS 42 aa* と *AS 42 cc* だけ )、J (*AS 42 cc* だけ )、L、M、N、AA (*AS 42 aa* だけ )。




**18. Lince：***Lince*( オオヤマネコ ) はイギリス・スダイムラー "Dingo：ディンゴ " 偵察装甲車 ( イギリス車両注釈 42) の忠実な複製だった。1941 年に初めて検討され、それから 1943 年 3 月末に採用の運びとなった。とはいえ、生産は 1944 年に初めて始まった；それゆえに、全てがドイツに渡った、ドイツはファシストイタリアへ数両を引き渡した。偵察と連絡用に使用された。263 の車台が組み立てられが 129 両だけが完成した。

関連項目イタリア車両注釈 E。

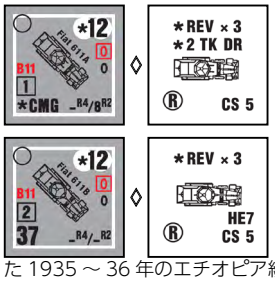



**19. Lancia 1ZM：**1912 年後期にイタリアがイタリア - トルコ紛争の間に北アフリカで幾度か戦った時に本当の軍事活動で装甲車を使用した最初の国家になった。後に 1915 年、Lancia( ランチア ) 1Z が登場した；それから 1917 年に 1Z から派生した 1ZM に到る。ランチア 2 タイプと共に WW1 で戦闘に参加していた。1928 年に MG がより最新のタイプに入れ替えられた。それ以降、1ZM はイタリアにより使用された、1937 年からスペイン内乱で、1935 ～ 36 年にエチオピア紛争で、そして、後のイタリア領東アフリカで。さらに、数両が中国へ 1937 年に輸出された。1 個戦隊が 6 両から編成されていた；2 個分隊。どの 1ZM にも特殊な柵を装着し、鉄条網を通り抜けたり切り開いたりできた。

† この AFV は完全装軌式であるかの様にして鉄条網を撤去してよい (B26.53)。

† WW2 シナリオ間の利用可能性は東アフリカに限られ、Date と RF は 40 年 7 月～ 41 年 1 月 (1.4) と 41 年 2 ～ 6 月 (1.5) がある。

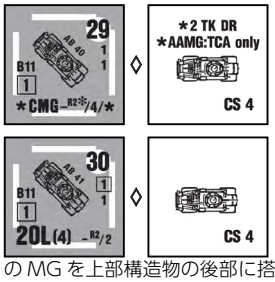
関連項目イタリア車両注釈 A、F、M。




**20. Fiat 611A & 611B：**時折、AB 611、又は AB 34 と呼ばれた装甲車は Fiat( フィアット )6 × 4 軍用トラックの車台を元にしていた。611A は 2 丁の MG を砲塔前部に持っていた、一方の 611B は代わりに中初速の 37㎜砲を搭載していた。両タイプ共に砲塔後部に MG 一丁を与えられていた、そして、別途車体後部にも与えられていた。ファイアット 611 は軍事行動に使用された 1935 ～ 36 年のエチオピア紛争、後にイタリア領東アフリカで。合計 46 両が組み立てられた。

† 両タイプ共に WW2 シナリオに対する利用可能性は東アフリカに限られ Date と RF は 40 年 7 月～ 41 年 1 月 (1.4) と 41 年 2 ～ 6 月 (1.5) がある。

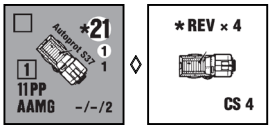
関連項目イタリア車両注釈 A(*Fiat 611A* だけ )、F、M。




**21. AB 40 & AB 41：**この 2 つの自動車化の先進的な設計がイタリア軍における最新 AC の必要条件を満たした：それは 4 輪操舵と完全独立独立懸架を持つ 4 × 4 レイアウト、勝手に回転する ( 車体の両側に沿った中ほどにある ) スペアタイアは障害物を横切る時に " 車体の底掏り " の予防に役立った、そして、後部の操縦席を特徴とした。AB 40 は同軸 MG 2 丁を砲塔に、及び第 3 の MG を上部構造物の後部に搭載した；AB 41 は 20㎜砲を 1 丁の砲塔 MG の位置に置いた、当然、エンジンの馬力も高められている。24 両の AB 40 と約 560 両の AB 41 が組み立てられた。それらは機甲師団、自動車化師団、そして、騎兵師団の偵察部隊へ支給された、しかも、独立偵察中隊と小隊でも使用されていた。AB 小隊は 4 両のこうした車両から構成された。

AB 40 はどうも北アフリカでしか使用されなかったみたいだ、一方 AB 41 は重要な前線全てで戦闘に参加したようだ ( ロシアに送られた 30 両を含む )。
ドイツは 37 両の完成した AB 41 に加えて別途製造中の 20 両を押収した。ドイツは AB 43 の試作も、より大きな砲塔、47㎜砲、及びさらに強力なエンジンを持つ新モデルも差し押えていた。とある改造を指示した後で (20㎜砲への逆戻りも含めて )、ドイツは自国向けに組み立てたタイプである 102 両を所有した、それは AB 41/43 と呼ばれていた。

† *AB 41* の Date と RF は北アフリカでの使用に対し 41 年 8 ～ 10 月 (1.5)、41 年 11 ～ 42 年 5 月 (1.4)、そして、42 年 6 月～ 43 年 5 月 (1.3)；ロシアに対し 41 年 12 月～ 42 年 8 月 (1.5)；バルカン半島に対し 42 年～ 43 年 9 月 (1.4)、そして、44 年～ 45 年 5 月 (1.4)(1.4；ファシストの使用にだけ )；シシリー島に対し 43 年 7 ～ 8 月 (1.4)；イタリアに対して 43 年 9 月 (1.3)、そして、44 年～ 45 年 5 月 (1.5；ファシストの使用にだけ )。
関連項目イタリア車両注釈 A と I( 両方共 *AB 40* にだけ )、N、R(*AB 41* だけ )。

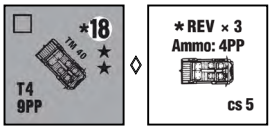


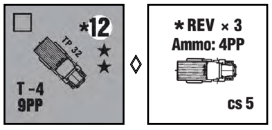

**22. Autoprotetto S37：**この装甲兵員輸送車は AS 37 トラックをベースにしていた、同様にそのトラックは TL 37 AS をもとにしていた、TL 37 砲兵牽引車の砂漠化バージョンだった。S37 は機甲歩兵に対する輸送車のつもりでなく、むしろ野戦 指揮官 / 補給用のつもりだった。けれども、主にコンボイの護衛とのためパルチザンが出没する区域、もっぱらバルカン半島で使用されるようになった。どうも北アフリカへ送られたと言っても、さほど多くなかったみたいだ。約 200 両が組み立てられた。

† この車両は移動 ( 及び関連する全て ) では*装甲車*として扱われる *[ 例外：後進移動はこの車両の通常のヘクス進入コストの 4 倍を使う — だから、"REV × 4" でカウンターに示されている ]*；その他の点で、装甲ハーフトラックとして扱われる。
† Date と RF はロシアでの使用に対し 42 年 10 ～ 12 月 (1.5)、そして、43 年 1 ～ 3 月 (1.6)。バルカン半島に対し 42 年 10 月～ 43 年 9 月 (1.4)、そして、44 年～ 45 年 5 月 (1.5；ファシストの使用にだけ )。
関連項目イタリア車両注釈 R。

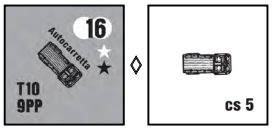
**23. Autocannoni da 20/65(b) & 65/17(b)：**モーリス CS8 15-cwt トラックが北アフリカでイギリスから捕獲されて 20㎜ AA、又は 65㎜ INF 砲を搭載するため改造された。2 つの *Gruppi*( グループ )(XIV と XV) *Autocannoni da 65/17* が編成された、4 門の砲兵隊 3 個それぞれに、各グループが 4 両の Autocannoni da 20/65 の分隊を配属されていた。それらは RECAM (*Reparto Esplorante del Corpo d'Armata di Manovra；イタリア軍団偵察部隊* ) の砲兵隊に配属された、後に北アフリカ第 1 機動部隊 (*Raggruppamento Celere AS*) に、そしてさらに後で、*第 136Giovani Fascisti* ( 青年ファシスト ) 師団に配属された。Autocannoni da 20/65 は現存した様々なトラックタイプもベースにしていた。イタリアは、どうも、他に 75㎜と 100㎜の砲兵砲を搭載する Autocannoni も設計していたがそれらの開発と使用に関してほとんど明らかにされなかったみたいだ。
†名称の "(b)" はハマダ走行不能 (F3.31) と砂地ボグ (F7.31) では "British(イギリス)" を表わす。車両にある固有の武装全てがイタリア製である — イギリス製ではない。
† *Autocannone da 65/17(b)* のオプションである AAMG は常に利用可能で 1.2 の RF がある。VCA の範囲内に位置する目標だけを射撃してよい — だから "MG: VCA only" でカウンターに示されている。
† *Autocannone da 20/65(b)* の 1945 年における使用はファシストイタリアに制限されているにすぎない。*Autocannone da 65/17(b)* の RF は北アフリカでの使用に対し 41 年 11 月～ 42 年 6 月で 1.5、42 年 7 ～ 12 月で 1.6、そして、1943 年に 1.5。
関連項目イタリア車両注釈 G と H(*Autocannone da 65/17(b)* にだけ )、N、R、そして、AA(*Autocannone da 20/65(b)* だけ )。

**24. Autocannoni da 75/27 CK & 90/53：**Autocannone da 75/27 CK (*Cannone Krupp：キャノン砲 クルップ社* ) は WW1 の間に、イタリアが Krupp 75㎜ AA 砲をトラックに乗せた時に考案された。1927 年に同じ砲がより最新型のセイラーノの車両に再び据付けられた、そして、これらがゲーム駒で表わすしているものである。24 両がイタリアによってスペイン内戦後半のスペインで使用された。数両が北アフリカでも北アフリカ作戦の早い段階で戦闘に参加した。Autocannone da 90/53 が、90/53 AA 砲搭載ため改造された Lancia 3 RO 4 × 4 ( 又は、後に Breda *Dovunque* 6 × 6) 重量トラックだった。多目的 AA-AT の役割をになう設計をされ、1941 年に登場した、そして、" アリエテ " 師団の第 132 砲兵連隊の 2 グループで初めて戦闘に参加した。どうやら 57 両しか組み立てられなかった ( しかも、それ以下の可能性が高い ) ようだ。
† *Autocannone da 75/27 CK* の RF は北アフリカでの使用に対し 40 年 6 月～ 41 年 2 月で 1.5、そして、41 年 3 ～ 11 月で 1.6。*Autocannone da 90/53* の、Date と RF は北アフリカでの使用に対し 42 年 5 ～ 11 月 (1.4)、42 年 12 月 (1.6)、43 年 1 ～ 2 月 (1.5)、そして、43 年 3 月 (1.6)。
関連項目イタリア車両注釈 D、N、AA。




**25. TL 37, TM 40, & TP 32：**1926 年頃からイタリアは様々な軽、中、重量の原動機を生産した、具体的に言うと原動機は砲を牽引する *trattore*(牽引車 ) と呼ばれていた。3 つの一般的なモデルがそれぞれ Fiata-Spa Trattore Leggero 37( フィアット牽引車軽 37) と Trattore Medio 40( 牽引車中 40)、そして、Breda Trattrice Pesante 32 ブレダト牽引車 32 だった。すべてが 4 × 4 大型車両で、特大の車輪と 4 輪操舵を持っていた ( 後者は狭い山道でより操作しやすくしている )。たいてい完全独立サスペンションも持っていた。1942 年まで TL 37 は北アフリカのイタリア部隊に向けた師団の砲兵隊の原動機に承認された 。TP 32 は 1930 年代前半から半ばに組み立てられた、別のあまり一般的でない砲兵牽引車も表わしている。1943 年 9 月以降、イタリアの砲兵牽引車はドイツによりイタリアにおいて、そして、ヨーロッパの別の場所において使用された。
†この車両により運搬された 100㎜以上の弾薬は (C10.13) は搭載能力を (8PP でなく )4PP 減らす — だから "Ammo: 4PP" でカウンターに示されている。
† *TL 37* の Date と RF は北アフリカ /ETO*[ 例外：バルカン半島 ]* での使用に対し 40 年 6 月～ 41 年 6 月 (1.3)、41 年 7 月～ 43 年 5 月 (1.2)、43 年 7 ～ 8 月 (1.3)、43 年 9 月 (1.2)、43 年 10 ～ 12 月 (1.6)、1944 年 (1.5)、そして。1945 年 (1.5；ファシストの使用だけ )。バルカン半島に対して 40 年 10 月～ 41 年 4 月 (1.3)、41 年 5 月～ 43 年 9 月 (1.4)、そして、44 年～ 45 年 5 月 (1.5；ファシストの使用だけ ) 東アフリカに対して 40 年 6 月～ 41 年 6 月 (1.5)、そして、41 年 7 ～ 11 月 (1.6)。
† *TM 40* の Date と RF は北アフリカ /ETO*[ 例外：バルカン半島 ]* での使用に対し 40 年 9 ～ 11 月 (1.6)、40 年 12 月～ 41 年 3 月 (1.5)、41 年 4 ～ 6 月 (1.4)、41 年 7 月～ 43 年 5 月 (1.3)、43 年 7 月～ 8 月 (1.4)、43 年 9 月 (1.3)、43 年 10 ～ 11 月 (1.6)、43 年 12 月～ 44 年 (1.5)、そして 1945 年 (1.6；ファシストの使用だけ )。バルカン半島に対して、40 年 10 月～ 43 年 9 月 (1.6)、そして、44 年～ 45 年 (1.6；ファシストの使用だけ )。
† *TP 32* の Date と RF は北アフリカ /ETO*[ 例外：バルカン半島 ]* での使用に対し 40 年 6 ～ 41 年 (1.5)、42 年～ 43 年 5 月 (1.4)、43 年 7 ～ 9 月 (1.4)、そして、43 年 10 月～ 11 月 (1.6)。バルカン半島に対して、40 年 10 月～ 41 年 4 月 (1.5)、そして、41 年 5 月～ 43 年 9 月 (1.6)。東アフリカに対して 40 年 6 月～ 41 年 11 月 (1.6)。
関連項目イタリア車両注釈 L、M、N、R。

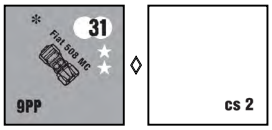



**26. Autocarretta：**ポーテ方式として小型砲の輸送は支持を失ったがゆえに、とあるタイプの軽トラックが 生産され / 改造され小型砲を牽引した。これらがまとめて *Autocarretta( アウトカレッタ )*、又は " 小型トラック " で表わされている。( アウトカレッタは実際、もともと山岳での使用をもくろんだ特殊車両だった。それゆえに、ゲーム駒へ適用された名称はやや誤った名称である、でも、便宜上、このより広い意味で使用されている。)

† オプションの AAMG は常に利用できる、そして、RF1.4 を与えられている。

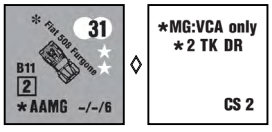
† Date と RF は北アフリカ / ロシア / イタリアでの使用に対し 41 年 8 月～ 43 年 5 月 (1.1)、43 年 9 月 (1.1)、43 年 12 月 (1.3)、1944 年 (1.2)、そして、1945 年 (1.2；ファシストの使用だけ )。その他の場所では *[ 例外：東アフリカでは適用されない ]*、41 年 8 月～ 43 年 9 月 (1.2)、43 年 10 ～ 11 月 (1.5)、そして、44 年～ 45 年 5 月 (1.2；ファシストの使用だけ )。

関連項目イタリア車両注釈 K、N、R。




**27. Fiat 508 MC：**民間の Fiat 1100 からの派生だった、508 MC(*Militare Coloniale：植民地軍* ) はイタリアにより使用されたもっともありふれた戦場の自動車だった。Of 4 × 2 の外観はたくさんで多数の異なるバージョンで生産されていた。とはいえ、たいがいは HQ 部隊 ( たとえば、通常の砲兵連隊はたったの 1 両しか承認されていない — 連隊の CO[ 指揮官 ]) に限られていた。ドイツ軍で、*1100 Mil* と呼ばれていた。AAMG バージョンが実際に Furgone( フルゴニ ) を表わす — たぶん現代の " ミニピックアップ " トラック相当に対する 508 改造だった — 合わせて連装の Fiat MG も搭載していた。約 50 両の フルゴニは上記の様に武装されて北アフリカで、コンボイの AA 防御用に使用された。

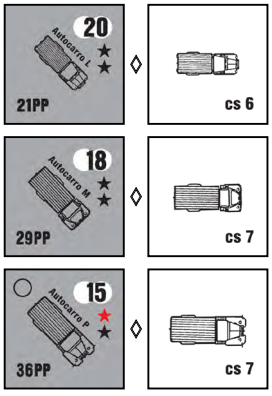
† この車両はボグした時、ひとつ ( だけ ) 徒歩の CX 分隊 ( 捕虜であっても — でも監視兵でない ) が 4MF 以上をその車両区域で ( そして、ボグ解消を手伝っていると表明して ) 使う、それによって、所有するプレイヤーへ直後に行うボグ解消




DR の色付き dr から 2( 操作班、又は HS 毎に 1) を引くことを許している。

† オプションの AAMG( ようするに、フルゴニ・バージョン ) は 1.4 の RF を与えられているけれども、北アフリカの設定で 1942 ～ 43 年シナリオに対してのみ利用できる。VCA の範囲内に位置する目標にだけ射撃してよい — だから、"MG: VCA only" でカウンターに示されている。AAMG は取り去ってはいけないが LMG 2 つとして徴発してよい。フルゴニは乗車兵能力がない。

関連項目イタリア車両注釈 A、K、N、R。




**28. Autocarri L, M, & P：**イタリア軍は種々多用のタイプとスタイルのトラックを所有していた、そう言ったわけで、ゲーム駒は総称的に表わしている、軽 (*Leggero*)、中 (*Medio*)、そして、重 (*Pesante*)。後者ふたつの積載容量と最小のフルスピードが 1937 年に規格化された、でもそれ以外は、ほぼ自由にどんなエンジンでも、タイヤでも、等々、使用できた。この事は、標準化の方針より前に生産された多数の車両と共に、ひどい予備部品の問題を引き起こした。イタリアは約 42,000 両の車両で戦争を始めていた ( 自動車とオートバイを除く )、1943 年中頃を通して約 108.000 両の自動車、トラック、そして、砲兵の牽引車を生産した。一般的に自動車輸送機関は戦時中を通してあらゆる境遇で供給不足だった。努力の結果が完全な常設編成をして北アフリカとロシアで、とにかく部隊を維持させていた、でも、生産は損失についてけなかった、ドイツからオペル・ブリッツとフランス製シトロエントラックを受けとていたにもかかわらず。それどころか、できうる限り捕獲したイギリス輸送機関の徴集はアフリカの輸送不足をさほど軽減できなかった。わずかな特殊タイプは別としてイタリアは概して自国の砲兵隊を牽引するトラックを使用しなかった。

† 全タイプに対する RF は北アフリカ / ロシア / イタリアシナリオ設定の 4 1 年 8 月～ 43 年 9 月で、そして、イタリア設定の 43 年 12 月に対して 1.3。そうでなければ 1.4*[ 例外：Date と RF は東アフリカでの使用に対し 40 年 6 月～ 41 年 6 月 (1.5)、そして、41 年 7 ～ 11 月 (1.6)；RF はイタリアの使用に対し 44 年～ 45 年 5 月で 1.2、そして、1945 年の入手可能性はファシストイタリアにだけ制限されている ]*。

関連項目イタリア車両注釈 N、R。

## イタリア 複数に適用できる車両注釈 (ITALIAN MULTI-APPLICABLE VEHICLE NOTES)

A. TO Kill DR を To Kill Table で使用する時に 2 回行う；( 射撃側の選択 )1 つの DR だけが使用される。この事は "2 TK DR" でカウンターに示されている。

B. 4-FP BMG は 1 つか 2 つの LMG として (D10.5 の通りに ) 徴集してよい；とはいえ、それは故障、修理、そして、修理不能では 1 つの MG としてみなされる。

C. この AFV は*無*砲塔である、その AAMG は VCA の範囲内に位置する目標にだけ射撃してよい — だから、"AAMG: VCA only" でカウンターに示されている、オプションの場合、AAMG は常に 1.4 の RF で使用できる。

D. MA は機動射撃も移動中 ( 臨機 ) 射撃でも使用してはいけない — だから、"No Bnd(F)F" でカウンターに示されている。

E. Stun 麻痺した場合、この AFV は CE 状態に復帰してはいけない、どの兵器も射撃してはいけない、そして、D5.341 に従って帰還を被る；これらは "Stun=Recall & CE/FP NA" でカウンターに示されている。

F. MA、*及び全ての MG* は B11 を与えられている。これは赤く "**B11**" でカウンターに示されている ( 車両リストの**太字**)。車両が車体後部 MG を装備していた場合、MG は dm MMG として回収してよい。

G. MA は車両の VCA を通して、移動中*臨機射撃*にも、機動射撃にも使用してはいけない — だから、"Bnd FF NA VCA" でカウンターに示されている。

H. HEAT は 1942 年 9 月に使用可能になる、だから上付きの " S2+ " で示されている。

I. *MR/35(f)* の CMG、及び *AB40* の車体後部の MG は 2-FP AAMG として位置変更してよい。これは AA カウンターを AFV へ味方の (MPh でなく ) 射撃フェイズの終了時に AFV に乗せてよい、その射撃フェイズは固有の操作班は CE であり、しかも ( 故障していても )MG を射撃できたがしなかったフェイズである。この AAMG は AFV の TCA の範囲内に位置する目標にだけ射撃してよい — だから、"AAMG: TCA only" でカウンターに示されている。AAMG は *MR/35(f)* CMG、又は *AB 40* 車体後部 MG として、AA カウンターを取り去る同じ仕組みを使用して位置変えしてよい。

J. 20L の MA は ATR で、最大の To Hit 射程として 12 ヘクスを与えられている ( だから、"[12] TH" でカウンターに示されている )、そして、徴集 / 回収してよい。通常の方法で与えられた CA を通して射撃する。*L3 CC* の MA は CE である場合使用してはいけない、だから、"CE use NA" でカウンターに示されている。

K. 武装された場合、この車両は固有の操作班を与えられ、だから cs# の代わりに CS# がある。

L. この車両は移動 ( 及び関連する全て ) 目的に対し *armored car( 装甲車 )* として扱われる。*[ 例外：生け垣を横切ってはいけない。下記の注釈 M も適用される。]*

M. 後進移動はこの車両へ通常のヘクス進入コストの 3 倍かかる — だから "REV × 3" でカウンターに示されている。

N. この車両は北アフリカで 40 年 6 月から 43 年 5 月までのある時期に使用された ( それ自体の定められた Date の制限内 )。上付きの " T " が適用される場合、その北アフリカでの使用はチュニジアに限られる、42 年 11 月～ 43 年 5 月 ( それ自体の定められた Date の制限内 )。

R . この車両はロシアでで 41 年 8 月から 43 年 3 月のある時期に使用された ( それ自体の定められた Date の制限内 )。

AA . MAはAA能力を与えられてる — だから、"MA: AA" でカウンターに示されている。

## イタリア 砲兵器注釈（ITALIAN ORDNANCE NOTES）

イタリア砲兵器は "#/#" システムの命名法を使用した、1 つ目の数字はミリで口径 ( 砲身内径 ) を、そして、2 つ目は砲身長 ( 口径長 ) を定めている。さらなる識別が必要とされた場合、生産年度が追加され末尾に付けられた。

*[ 特記：連合軍側イタリアの戦闘編成すべてが 1945 年前半にイギリスによって再装備っされた。そのため、その年のＤＹＯシナリオ設定に対し；連合軍側イタリアプレイヤーはイギリスの 3-in. MTR/AT/88-ART/40L-AA( だけ ) を OB がイギリスであるかの如くにして購入してよい。プレイヤーはこうした砲を捕獲で無いとして扱う。]*

**1. Mortaio da 45 *"Brixia"*：**この兵器は、イタリア軍の標準的な " 強襲と支援 " の迫撃砲は、1935 年に軍へ受け取られていた、そして、同年イタリア領東アフリカで初めて戦闘に参加した。その設計はいくつかの並はずれた — そして、余りにも入り組んだ — 特徴を盛り込んでいた。砲口へ弾を単純に落とす事で発射させる代わりに、レーバーアームが引かれて砲尾の先を開き、それから発射体 ( 後部に垂直安定板を付いた付属品がある標準的な擲弾 ) が開口部を通して手込めされた；後で、レバーが押されて (10 発弾倉から ) 発射弾薬筒が挿入されて砲尾が閉まる。発砲は引き金を引くことでなされていた。射程は一般的な方法である仰角を設定して、そしてまた、推進用ガスの一部を抜く調整噴気孔でも変更できた。実戦で、射撃手は普通にうつ伏せになって、迫撃砲の後ろの脚に装着された詰め物をしたクッション枠に胸を置いていた。運搬のため、脚は折りたたまれて兵器全体が背負い式で背負われていた、クッションが運搬者の背中の負担を軽減してた。

( 設計者の名前 )"Brixia：ブリクシア " はたいてい兵器それぞれを 3 個の迫撃砲分隊で使用されていた。3 個のこうした分隊が小隊を編制し、その中の 2 つが歩兵大隊の SW 中隊 (*compagnia armi di accompagnamento[ 同伴する火器中隊 ]*) で認可されていた。大隊はたいてい 1 個か 2 個分隊をライフル中隊のそれぞれにあてがった。アルピーニ大隊で、各中隊は通常、本来備えたブリクシア分隊を代わりに含めていた。*ベルサリエリ* ( イタリア陸軍の歩兵科 )、騎兵、そして、リビア兵の部隊は通常 45㎜迫撃砲を認可されなかった。一部の師団の 81㎜迫撃砲大隊はブリクシア小隊 3 個である中隊 1 個を 81㎜中隊 1 個の代わりに、後者が準備できるような時期まで含んでいた。戦争の初め頃、イタリアもまた、前フランス製 60㎜迫撃をかなり受入れていた。

ブリクシアの前線使用は戦争が進むにつれて減退した、特に北アフリカでは、1942 年までのその地で、もはや第一線の師団であっても認可しなかった。とはいえ、1943 年後半、初めての連合軍側イタリア部隊が編成される時、各大隊は 18 門のブリクシアを認可された。かなりの数のブリクシアとイタリア SW の他のタイプがパルチザンによりバルカン半島で使用された。

関連項目イタリア砲兵器注釈 A、N。

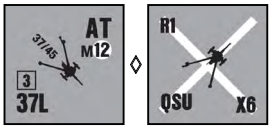
**2. Mortaio da 81/14：**エチオピアで 1936 年に初めて使用された、81/14 はフランスブラント 81㎜迫撃砲の精密な写しだった。軽 (7 ポンド ) と重 (15 ポンド ) 弾の両方を発射した、しかも、戦争中に使用された中型迫撃砲の最長射程を持っていた。その弾薬は U.S. とフランスの 81㎜迫撃砲のものと互換性があった、だから、ドイツ 81㎜弾もまた、まさに 2,000㎜以上を発射できた。黒シャツ党軍団と普通の歩兵連隊、自動車化、そして、" トラック輸送可能な "(*autotrasportabile*) 歩兵師団がそれぞれ 81/14 の 1 個中隊をたいてい認可されていた。とはいえ、1942 年北アフリカ・タイプ (*Tipo AS*) の歩兵連隊、もちろん*アルピーニ*連隊は代わりに各大隊の中隊に認可されていた。騎兵、リビア兵、落下傘、そして、*ベルサリエリ* ( イタリア陸軍の歩兵科 ) 連隊は通常であれば 81/41 を全く含まなかった ( 北アフリカで、後者の一部がある時期に実際に所有していたけれども )。歩兵と *autotrasportabile* 師団の両方が — Tipo AS と呼ばれた部隊を除く 一師団の迫撃砲大隊として 3 個中隊にも認可されていた。" パスビオ " と " トリノ "*autotrasportabile* 師団それぞれがこうした 2 個大隊をロシアで与えられていた。81㎜迫撃砲中隊はそれぞれ 2 門の ( 時折 3 門、特に北アフリカで ) 小隊 3 つから成っていた。戦前ポーランドの M28 81㎜迫撃砲もまたイタリアへかなり供給されていた。

† Date と RF は北アフリカでの使用に対し 40 年 6 月～ 41 年 5 月 (1.3)、41 年 6 月～ 42 年 4 月 (1.2)、42 年 5 ～ 12 月 (1.1)、そして、43 年 1 ～ 5 月 (1.0)。東アフリカに対して 40 年 6 月～ 41 年 6 月 (1.3)、そして、41 年 7 ～ 11 月 (1.4)。ロシアに対して 41 年 8 月～ 43 年 1 月 (1.1)、43 年 2 月 (1.3)、そして、43 年 3 月 (1.5)。他の場所で 40 年 6 月～ 43 年 9 月 (1.2)、43 年 10 月～ 11 月 (1.3)、43 年 12 月 (1.2)、1944 年 (1.1)、そして、1945 年 (1.1；ファシストの使用だけ )。

関連項目イタリア砲兵器注釈 A、N。

**3. Fucile-cc S：**多くの他国のように、イタリアもスイス製 20㎜ ATR を採用した — この場合、イタリア軍の s18-1000( そして、同類の s18-1100) は *Fucile-controcarro S* ( 対戦車ライフル・ソロトゥルン ) と呼ばれていた。性能として 2 輪車、又は 2 脚架のどちらかからで、シングル－ショットとセミオート ( 又は 1100 バージョンでフルオート ) 射撃があった。1940 年に初めて支給された、大隊毎に 2 門、北アフリカにおける部隊に対し ( 特に*ベルサリエリ* [ イタリア陸軍の歩兵科 ] とリビア兵の部隊 )。後者は、稼働率が増やされた時、活動はより広範囲になったので認可された大隊毎に 6 門もの数になった。Fucile-cc S は多くの場合、前線任務から外された 45㎜迫撃砲の元操作班により人員配置されていた。イタリアにより使用された別の ATR はポーランド製 Marosczek wz 35 だった。ドイツが 1939 年 9 月にこれらの約 2,000 丁を捕獲し、1941 ～ 42 年の冬季の間にそれらの大部分をロシア内のイタリア部隊へ引き渡した。

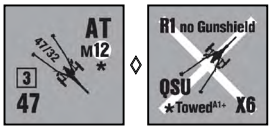
関連項目イタリア砲兵器注釈 N。




**4. Cannone-cc da 37/45：**これはライセンス生産バージョンであるドイツの 3.7㎝ Pak 35/36 だった。実際はともかく広範囲に使用されなかったみたいだ、そして、その使用に関してほとんど明らかにされていない。( それどころか、イタリアの文献はめったにそれを言及していない。) 北アフリカタイプの*ベルサリエリ* ( イタリア陸軍の歩兵科 ) トラック輸送とオートバイ中隊がそれぞれ 37/452 門の小隊を認可されていた、しかも、( 運搬されて通常ポーテ射撃された ) いくつかがキレナイカにおける初期の戦闘間にイギリスと遭遇していた。どうも、北アフリカにおけるこの使用が唯一の意味のある戦闘使用だったみたいだ — 1930 年代に 2 個中隊がスペイン内乱でイタリア部隊により使用されていたのだけども。

† Date と RF は北アフリカでの使用に対し 40 年 6 ～ 41 年 2 月 (1.4)、そして、41 年 3 ～ 12 月 (1.5)。

関連項目イタリア砲兵器注釈 C、N、R。




**5. Cannone-cc da 37/45：**これはイタリアがいくつかのライセンス生産で生産したオーストリアで設計された Boehler( ベーラー ) M1935 だった。イタリアは歩兵支援のため AT 砲として、そして、駄載砲としてそれを使用した、一方で、改造バージョンが M13-M14 戦車と SMV 47/32 で使用された。その設計に対するある欠点が砲盾がないことだった；もう一つが 1939 年より前の製造に牽引する小穴がなかった、だから、人力移動するかポーテ運搬するかしなければならなかった。全体としては優秀な砲だった、適切な後継がない結果により、時代遅れとなってからも長く軍で使用されねばならなかった。1940 年中頃に 928 門がイタリア軍にあった ( リビアの 127 門を含む )；1943 年 9 月までに 3,000 門以上が生産されていた。

47/32 は師団の AT 中隊で以下の師団それぞれに広く認可された、普通の、及び " トラック輸送可能な "(*autotrasportabile*) 歩兵の、セレレ、黒シャツ、そして、リビア兵師団。各自動車化歩兵連隊は 1 個中隊を認可していた、同様に各*ベルサリエリ* ( イタリア陸軍の歩兵科 ) 連隊にも言える；とはいえ、1941 年中頃までに後者の多くが代わりに大隊毎に 1 個中隊を置いていた。47/32 はやがて歩兵支援任務で全て 65/17 と入れ替えるつもりだったので、一部の連隊が 65/17 砲兵隊の代わりに 47/32 中隊を所有していた — そして、1942 年前半から、歩兵連隊は北アフリカで、それぞれ代わりに 12 門の 47/32 を認可されていた。砲は落下傘投下できたので、" フォルゴレ " 落下傘師団が師団の砲兵隊として使用した —さらに、いくつかのこの師団の連隊と大隊はそれぞれ 47/32 中隊を含んでいた。いくつかの 47/32 AT 大隊もまた存在した；軍団レベルでの使用は別として、1941 年中頃までに、それは一般的に書く機甲師団に配属されていた。ロシアへ派遣された多くの師団は

## イタリア 砲兵器一覧表 (ITALIAN ORDNANCE LISTING)

| # | Name | Type | CSize | ROF (IFE) | B# | Range | M# | TSize | Dates | Special | BPV | RF | Notes |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6 | Mortaio da 45 *"Brixia"* | MTR | 45* | 2 | 11 | 2-13 | — | — | 35-5/45 | 4PP | — | — | 1, A, N |
| 4 | Mortaio da 81/14 | MTR | 81* | 3 | | 3-102 | 11 | +1 | 36-5/45† | NT, QSU, s8, IR | 28 | 1.0-1.5† | 2†, A, N |
| 6 | Fucile-cc S | ATR | 20L | 2 | | 12 | — | — | 40-5/45 | 5PP | — | — | 3, N |
| 4 | Cannone-cc da 37/45 | AT | 37L | 3 | | 120 | 12 | +1 | 36-41 | NT, QSU | 28 | 1.4-1.5† | 4†, C, N, ✗ |
| 4 | Cannone da 47/32 | AT | 47 | 3 | | 107 | 12 | +1 | 36-5/45† | NT, QSU, no Gunshield, Towed$^{A1+}$† | 29 | 0.9-1.6† | 5†, A, C, N |
| 4 | Cannone da 65/17 | INF | 65* | 1 | 11 | 163 | 10 | +1 | 13-5/45† | NT, H6$^{S2+}$†$^{1}$, no Gunshield | 21 | 1.0-1.6† | 6†, A, C, H†$^{1}$, N |
| 2 | Cannone da 70/15 | INF | 70* | | 11 | 166 | 11 | +1 | 04-11/41 | NT, QSU, Acq. NA†$^{1}$, no Gunshield, h-d | 20 | 1.2-1.3† | 7†, A, B†$^{1}$, ✗ |
| 4 | Obice da 75/13 | ART | 75* | 1 | | 206 | 10 | +1 | 18-5/45† | NT, QSU | 26 | 1.2-1.6† | 8†, A |
| 4 | Cannone da 75/27 | ART | 75* | 1 | 11 | 243 | 8 | 0 | 06-5/45† | NT, QSU, H6$^{S2}$+†$^{1}$ | 25 | 1.2-1.4† | 9†, A, C, H†$^{1}$, N |
| 4 | Obice da 75/18 | ART | 75* | 1 | | 239 | 9 | 0 | 11/41-5/45† | NT, QSU, H6$^{S2+}$†$^{1}$, s8 | 29 | 1.3-1.6† | 10†, A, H†$^{1}$, N |
| 4 | Cannone da 75/32 | ART | 75 | 1 | | 313 | 8 | 0 | 8/42-9/43† | NT, QSU, H6$^{S2+}$†$^{1}$, s8 | 33 | 1.4-1.6† | 11†, H†$^{1}$ |
| 4 | Obice da 100/17 | ART | 100* | 1 | 11 | 232 | **6** | 0 | 18-5/45† | NT, H6$^{S2+}$†$^{1}$ | 26 | 1.3-1.6† | 12†, A, H†$^{1}$, N |
| 4 | Cannone da 105/28 | ART | 105 | | | 330 | **6** | -1 | 18-5/45† | NT, s8 | 26 | 1.2-1.6† | 13†, N |
| 2 | Obice da 149/13 | ART | 150* | | | 220 | **5** | -1 | 14-5/45† | NT | 38 | 1.6-1.4† | 14†, N |
| 2 | Cannone da 149/35 | ART | 150 | | 11 | 265 | **1** | -1 | 00-8/43† | NT, s8, RFNM, no IF, Acq. NA†$^{1}$ | 25 | 1.5-1.6† | 15†, B†$^{1}$, N, ✗ |
| 2 | Cannone da 149/40 | ART | 150L | | | 593 | **-1** | -1 | 35-3/43† | NT, RFNM | 33 | 1.6-1.5† | 16†, N |
| 4 | Cannone-mitr. da 20/65 | AA | 20L | 3(4) | | 138 | 11 | +1 | 35-5/45† | T, LF [NT, 20†, 2 ROF] | 26 | 1.6-1.0† | 17†, A, C, N |
| 4 | Cannone-aa da 75/39 | AA | 75L | 2 | | | **6** | -1 | 8/42-3/43 | T, "16" AP TK#† | 39 | 1.3-1.6† | 18† |
| 4 | Cannone-aa da 75/46 | AA | 75L | 2 | | 324 | **5** | -1 | 34-5/45† | T | 40 | 1.4-1.6† | 19†, N |
| 4 | Cannone-aa da 90/53 | AA | 90L | 2 | | 439 | **3** | -1 | 5/42-5/45† | T | 48 | 1.5-1.6† | 20†, N, ✗ |

少なくとも師団の AT 中隊を 2 個含んでいた。47/32 中隊はたいてい 4 個小隊で 8 門から成っていた。どうも 47/32 はイタリア領東アフリカへ 1 つも派遣されなかったみたいだ。

イタリアにより使用された他の AT 砲が含まれていた、わずかながらドイツ 7.5㎝ Pak 97/38(36 門がロシアの第 8 軍へ引き渡された )、7.5㎝ 40( 数門 )、そして、8.8㎝ Flak( 数門が北アフリカで使用された )、及びフランス 25㎜ mle 1934。

† *47/32* は 1941 年 8 月より前のシナリオ設定で牽引してはいけない — "Towed$^{A1+}$" でカウンターに示されている。

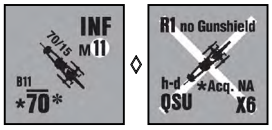
† Date と RF は北アフリカでの使用に対し 40 年 6 月～ 41 年 5 月 (1.2)、41 年 6 ～ 10 月 (1.1)、41 年 11 月～ 42 年 4 月 (1.0)、そして、42 年 5 月～ 43 年 5 月 (0.9)。ロシアでの使用に対して 41 年 8 月～ 43 年 1 月 (1.0)、43 年 2 月 (1.2)、そして、43 年 3 月 (1.4)。他の場所で *[ 例外：東アフリカでは適用しない ]*40 年 6 月～ 43 年 9 月 (1.3)、43 年 10 ～ 11 月 (1.6)、43 年 12 月 (1.3)、1944 年 (1.2)、そして、1945(1.2；ファシストの使用だけ )。

関連項目イタリア砲兵器注釈 A、C、N。

**6. Cannone da 65/17：**これは 1913 年頃からのイタリア製の山岳砲だった。*アルピーニ*部隊が WW1 で使用した、でも、1940 年までに大部分は歩兵支援へと追いやられた。1940 年中頃に使用中の 700 門があった、リビアの 146 門とイタリア領東アフリカの 312 門を含む。普通の、そして、" トラック輸送可能な "(*autotrasportabile*) 歩兵の両師団で黒シャツ軍団と歩兵連隊がそれぞれ 65/17 4 門の 1 砲兵隊を認可されていた ( 一部が 47/32 を代わりに使用したけれども；上記の注釈 5 を参照 )。わずか希有な例示で — ほとんどイタリア領東アフリカにおいて —65/17 は師団の砲兵隊として使用されていた。( やはり、スペイン内乱で結果としてナショナリスト派により使用されていた。)

† Date と RF は北アフリカでの使用に対し 40 年 6 ～ 12 月 (1.1)、41 年 1 ～ 10 月 (1.2)、41 年 11 月～ 42 年 4 月 (1.3)、42 年 5 月～ 12 月 (1.4)、そして、43 年 1 ～ 5 月 (1.5)。ロシアでの使用に対して 41 年 8 月～ 42 年 (1.1)、43 年 1 月 (1.5)、そして、43 年 2 ～ 3 月 (1.6)。他の場所で 40 年 6 月～ 43 年 9 月 (1.1)、そして、44 ～ 45(1.3；ファシストの使用だけ )。

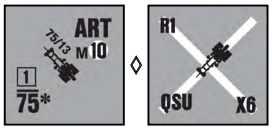
関連項目イタリア砲兵器注釈 A、C、H、N。




**7. Cannone da 70/15：**この駐退装置の類いが無い旧式砲は、1902 年に山岳砲として*アルピーニ*部隊用に最初生産されていた。のちに、65/17 に取って換わり歩兵へ渡された。それがイタリア領東アフリカで起きた WW2 間の戦闘で唯一の目立った使用だった、そこで 92 門が 1940 年 7 月に提供された。間違いなく連隊規模で、65/17 の様にして使用されていた。

† RF は東アフリカでの使用に対し 40 年 6 月～ 41 年 6 月で 1.2、そして 41 年 7 ～ 11 月で 1.3。

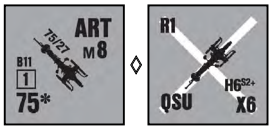
関連項目イタリア砲兵器注釈 A、B、✗。




**8. Obice da 75/13：**Skoda( シュコダ )7.5 ㎝ vz15 は山岳榴弾砲が生んだ最も成功した中のひとつだった。多くが WW1 後にイタリアにより接収されていたので、75/13 と呼ばれた、そして*アルピーニ*部隊へ支給され 65/17 と入れ換えた。1940 年中頃、軍は 1,187 門の 75/13 を使用していた、イタリア領東アフリカの 32 門を含んでいる。*アルピーニ*連隊は、その組織は自主的に必要に応じて運用することを認められ、連隊は多くの場合直属の 75/13 砲兵大隊 (*gruppo*) を置いた、その中の 1 砲兵隊 ( 砲 4 門 ) が同様に各連隊の大隊へ割り当てられることができた。*アルピーニ*師団 3 個それぞれが 1942 年にロシアへ派遣された、その砲兵連隊に 2 個の 75/13 大隊を含んでいた。さらに、75/13 は時々、師団の砲兵隊として他のタイプの師団により使用されていた。

† Date と RF はロシアでの使用に対し 42 年 9 ～ 12 月 (1.3)、43 年 1 月 (1.2)、43 年 2 月 (1.5)、そして、43 年 3 月 (1.6)。東アフリカに対し、40 年 6 月～ 41 年 6 月 (1.5)、そして、41 年 7 ～ 11 月 (1.6)。他の場所で *[ 例外：北アフリカで適用されない ]* 40 年 6 月～ 43 年 9 月 (1.2)、1941 年 (1.4)、そして、1945(1.4；ファシストの使用だけ )。

関連項目イタリア砲兵器注釈 A。

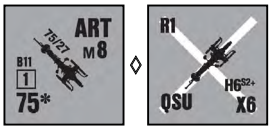



**9. Cannone da 75/27：**これは標準的なイタリア軽野戦砲で多くのイタリア師団の砲兵連隊にあった。実を言うとゲーム駒は 4 つの異なる WWW1 以前の砲を表わしている、それらの砲はゲーム条件で、そして、史実的役割で同等である：75/27 m06、m11 と m12、そして、77/28。m06 はライセンス生産のクラップ製品だった、その中の 51 門が後にイタリアにより改造されて m12 となる。m11 はフランスから輸入された、開脚架を持つ世界で初めての軍用砲兵砲であるため有名だった。

77/28 はシュコダ製 野砲 / 山岳 併用砲だった；他の使用の中でイタリアのリビア師団 2 個へ支給された。1940 年中頃、3,091 門の 75/27 が軍で使用された ( リビアの 499 門とイタリア領東アフリカの 24 門を含む )、さらに 245 門の 77/28 が使用された。砲兵隊は 4 門の砲から成った。スペイン内乱で、75/27 が一部のナショナリスト派部隊により師団の砲兵隊として使用された。

† Date と RF は東アフリカに対し 40 年 6 月～ 41 年 6 月 (1.3)、そして、41 年 7 ～ 11 月 (1.4)。他の場所で 40 年 6 月～ 43 年 9 月 (1.2)、そして、1944 ～ 45 年 (1.4；ファシストの使用だけ )。

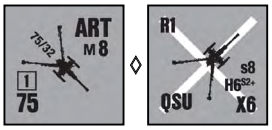
関連項目イタリア砲兵器注釈 A、C、H、N。




**10. Obice da 75/18：**このゲーム駒は 2 門の砲を表わしている。75/18 m34、この砲は最新の山岳砲で 1934 年に 75/13 に由来していた；そして、75/18 m35、普通の野戦榴弾砲で m34 から派生していた。1940 年 6 月にわずか 114 門の m34 が使用されていた、そして、14942 年 9 月までに、230 門の m34 と 68 門の m35 が生産されていたにすぎない。( 別の 54 門が後で 1943 年中頃までに組み立てられた。) 両タイプは 2、3 の選ばれた部隊で師団の砲兵隊として使用された、たいてい北アフリカとロシアで。砲兵は 4 門の砲から成っていた。この砲兵器もまたセモベンテ M42 da 75/18 の MA として使用されていた、比較的わずかしか牽引タイプが組み立てらならなかったことが理由のひとつにある。

† Date と RF は北アフリカでの使用に対し 41 年 11 ～ 43 年 5 月 (1.4)、ロシアでの使用に対し 42 年 7 ～ 12 月 (1.3)、43 年 1 月 (1.5)、そして、43 年 2 ～ 3 月 (1.6)。他の場所で 42 年～ 43 年 9 月 (1.5)、43 年 12 月 (1.5)、1944 年 (1.4) そして、1945 年 (1.4；ファシストの使用だけ )。

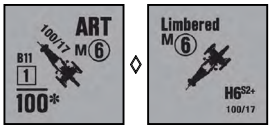
関連項目イタリア砲兵器注釈 A、H、N。




**11. Cannone da 75/32：**75/32 は 実 質 的 に 75/18 m35 と同一だった、けれども、初速と射程を増やすためより長い砲身を持っていた。1937 年に容認されたけれども 1940 年まで生産に入らなかった。1942 年 9 月までに、39 門が組み立てられただけだった — 1943 年中頃までにさらに 98 門が生産されていたにすぎなかった。砲兵隊の砲としてもくろんでいたけれども、75/32 は主に AT 砲として使用された — 中でも注目すべきはロシアおいて 36 門が第 201 自動車化 AT 連隊の 3 個大隊 (*gruppi*) で、砲兵隊毎に 4 門で使用された。どうやら、ほんのわずかだけ北アフリカへ送られながらも、そこで戦闘があったとしてもほとんど参加しなかったみたいだ。

† Date と RF はロシアでの使用に対し 42 年 8 ～ 12 月 (1.4)、そして、43 年 1 ～ 3 月 (1.6)。イタリアでの使用に対し 43 年 9 月 (1.5)。

関連項目イタリア砲兵器注釈 H。




**12. Obice da 100/17：**もう一つの旧式のオーストリア・ハンガリー榴弾砲 — この事例でシュコダ 10㎝ vz 14 である。かなりの数がイタリアにより 1918 年に接収された、その一部がスペイン内乱で使用された。1940 年中頃にイタリア軍で 1,524 門があった ( リビアの 172 門とイタリア領東アフリカの 14 門を含む )、さらに山岳バージョンだったシュコダ 10㎝ vz 16 の 181 門加える。その上、後にドイツがイタリアに vz 14/19 の 400 門を ( それは後に 100/22 と呼ばれた )、vz 14 の改造バージョンを与えた。イタリアは 100/17 を 75/27 の姉妹編として色々な師団の砲兵連隊で使用した；とはいえ、戦闘が進展した時 105/28 に入れ換えられる傾向にあった。ロシアで 100/17 は "パスビオ" と "トリノ" の *autotrasportabile( トラック輸送できる )* 師団と第 3 *セレレ* 師団によってのみ使用された；最初の 2 つがそれぞれ 1 個大隊 (*gruppo*) を作戦を通して含んでいた、一方後者は 1942 年にだけそれを含んでいた。砲兵 *gruppo* は通常 12 門の砲を 3 個大隊で含んでいた。

M# は 9 へ変えることで、ゲーム駒は 105/11 も表わす、フランス山岳砲がロシアへ派遣された*アルピーニ*師団で使用された。

† Date と RF は北アフリカでの使用に対し 40 年 6 ～ 41 年 (1.3)、そして、42 年～ 43 年 5 月 (1.4)。東アフリカに対し 40 年 6 月～ 41 年 6 月 (1.5)、そして、41 年 7 ～ 11 月 (1.6)。ロシアに対し 41 年 9 月～ 42 年 (1.3)、43 年 1 月 (1.4)、そして、43 年 2 ～ 3 月 (1.6)。他の場所で 40 年 6 月～ 43 年 9 月 (1.3)、43 年 10 ～ 12 月 (1.6)、1944 年 (1.5)、そして、1945 年 (1.5；ファシストの使用だけ )。

関連項目イタリア砲兵器注釈 A、H、N。

**13. Cannone da 105/28：**これはライセンス生産バージョンのフランス 105㎜ mle 1913(L 13 S としても知られている )。イタリアは軍団砲として使用した、もっとも 100/17 の代わりに師団規模でも使用されていたのだが。さらにゲーム駒は 105/32 を、改造バージョンの旧シュコダ 10.4㎝ vz 15 も表わしている；それも軍団規模で使用された。1940 年中頃に、956 門の 105/28 と 227 門の 105/32 がイタリアで使用されていた、リビアにおいて ( それぞれ )97 門と 0 門を、そして、イタリア領東アフリカにおいて 59 門と 4 門を含んでいる。105/28 もまた軍団規模の砲としてスペイン内乱で使用された。

† Date と RF は北アフリカでの使用に対し 40 年 6 ～ 41 年 (1.4)、そして、42 年 1 月～ 43 年 5 月 (1.3)。東アフリカに対し 40 年 6 月～ 41 年 6 月 (1.4)、そして、41 年 7 ～ 11 月 (1.5)。ロシアに対し 41 年 9 月～ 42 年 6 月 (1.3)、42 年 7 ～ 12 月 (1.2)、43 年 1 月 (1.3)、43 年 2 月 (1.5)、そして、43 年 3 月 (1.6)。他の場所で 40 年 6 月～ 43 年 9 月 (1.4)、43 年 10 月～ 12 月 (1.6)、1944 年 (1.5)、そして、1945 年 (1.5；ファシストの使用だけ )。

関連項目イタリア砲兵器注釈 N。

**14. Obice da 149/13：**この駒は 2 つの旧シュコダ榴弾砲を表わす — 15㎝ vz 14 と 14/16 — イタリアによりオーストリア・ハンガリー帝国から WW1 後に接収されていた。初めは 149/12 と呼ばれて次に 149/13 と呼ばれた。一部がスペインへ送られ、それが軍団 / 軍砲兵隊としてナショナリスト派により使用された。1940 年中頃に、592 門の 149/12 と 490 門の 149/13 がイタリアで使用されていた、リビアの 37 門とイタリア領東アフリカの ( 全てが 149/13)4 門を含んでいる。両タイプ共に軍団砲兵として使用された。2 個大隊 (*gruppi*) の 149/13( 合計 48 門、砲兵隊毎に 4 門 ) がロシアで第 8 軍の 3 つの軍団で使用された。イタリアは軍団規模の砲と榴弾砲に対して " 重野砲 "(*Presanti campli*) と呼んだ。イタリアにより使用された別の軍団砲は WW1 後にイギリス帝国から輸入した 6 *インチ*榴弾砲だった。1940 年 6 月に、88 門がイタリアで使用された。さらにイタリアは最新の、優れた軍団榴弾砲を生産した — 149/19 — けれども、それの生産量は低くて、どうもほとんど戦闘に参加していなかったみたいだ。ドイツは 1943 年以降生産を続けた、自国で使用するためだった。

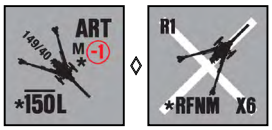
† Date と RF は北アフリカでの使用に対し 40 年 6 ～ 12 月 (1.5)、そして、41 年 1 月～ 43 年 5 月 (1.4)。東アフリカに対し 40 年 6 月～ 41 年 11 月 (1.6)。ロシアに対し 42 年 7 月～ 43 年 1 月 (1.4)、そして、43 年 2 ～ 3 月 (1.6)。他の場所で 40 年 6 月～ 43 年 9 月 (1.5)、1944 年～ 45 年 (1.6；ファシストの使用だけ )。

関連項目イタリア砲兵器注釈 N。

**15. Cannone da 149/35：**もう一つの旧式砲は、WW2 の間、いまだに使用されていた 149/35 だった、それは世紀の変わり目頃に始めて生産されていた。駐退装置が無かった、だから、斜面がその車両の背後に置かれて射撃のたびに遠く後ろに転がる事を防いでいた。転がりをさらに防ぐため、大きな平板が車輪のリムの周囲にくくりつけられていた (WW1 で一般的に行われていたのと同じ )、これが牽引速度を落としわずか時速 4-5 マイルまでになったのではあるが。1940 年 6 月、895 門がイタリアで使用されていた。149/35 は軍規模でバルカン半島と北アフリカにおいて、砲兵隊毎に 4 門で使用された。

† Date と RF は北アフリカでの使用に対し 40 年 6 ～ 12 月 (1.5)、41 年 1 月～ 10 月 (1.6)、そして、41 年 11 月～ 42 年 11 月 (1.5)。バルカン半島に対し 40 年 10 月～ 41 年 4 月 (1.5)。シシリー島に対し 43 年 7 ～ 8 月 (1.6)。

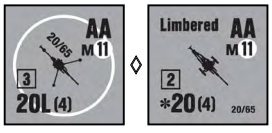
関連項目イタリア砲兵器注釈 B、N、~~R~~。




**16. Cannone da 149/40：**149/35 と、そして、他の様々な旧式の大口径の砲と入れ替えるため、149/40 は 1935 年ごろから生産された。とはいえ、あまりにも多くの他の場合と同様に、イタリアの軍需工場は早急な生産を成し遂げる事ができなかった、だから 1940 年 6 月までにたったの 39 門しか使用していなかった。1942 年 9 月にロシアに 36 門が、北アフリカに 12 門が、そして、イタリアに 3 門があった。149/40 の姉妹砲も存在していた。これが 1938 年に軍へ受入れられた、210/22 だった。この場合もやはり、生産数はわずかだった：16 門が 1940 年 6 月に使用されていた、そして、1942 年 9 月に 20 門だけが使用されていた。どうも 210/22 はロシアでだけ、LXXIII *Gruppo*(15 門 ) の一員として戦闘に参加していたみたいだ。ドイツは 149/40 と 210/22 を優れた設計と考えて両タイプを 1943 年以降も生産を続けた。1941 年に、イタリアは 38 門のドイツ 15㎝ sHF 18 榴弾砲を受取った；149/28 と呼ばれた、24 門がロシアで使用された (XXIV と L *Gruppi* で )、そして、14 門が北アフリカで (CXXXI と CXLVII *Gruppi* で )。ロシアで、これら砲タイプの 3 つ全てが第 9 陸軍砲兵旅団において砲兵隊毎に 4 門で使われていた。イタリアは軍規模の砲で重 (*Pesanti*) 砲兵隊として言及していた

† Date と RF は北アフリカでの使用に対し 41 年 6 ～ 42 年 11 月 (1.6)、ロシアについて 42 年 8 ～ 12 月 (1.5)、そして、43 年 1 ～ 3 月 (1.6)。

関連項目イタリア砲兵器注釈 N。

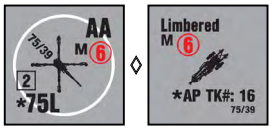



**17. Cannone-mitragliera da 20/65：**これは標準的なイタリアの軽 AA 砲だった、そして、イタリアは重機関砲 (*mitragliera*) としても、軽 AT 砲としてもみなしていた。1935 年に採用されて、1930 年代後半に中国へ輸出された、そして、約 60 門がスペイン内乱で使用された。1940 年中頃までに軍に 1,088 門あった、リビアの 209 門とイタリア領東アフリカの 24 門を含んでいる；1942 年 9 月までにその合計数は 2,788 門まで増えていた ( 固定砲架の 326 門を含んでいる )。砲兵連隊は歩兵師団なら通常 20/65 の 1 個の歩兵隊に認可されていた、あるいは、多くの別タイプ師団で 2 個の砲兵隊に認可されていた。1941 年中頃までの北アフリカで、少なくとも一部の自動車化歩兵とベルサリエリ連隊もまた 20㎜砲兵隊をさらに、( 又はその代わりに ) 含んでいた。ロシアに派遣された全師団が 2 個の 20/65 歩兵隊を含んでいた — なにも与えられなかった "Vicenza"( ヴィチェンツァ ) 占領師団を除く。8 門の 20/65 中隊 ( 小隊毎に 2 門 ) は機甲師団と自動車化師団の RECo(*Raggruppamento Esplorante Corazzato*：機甲偵察機動部隊 ) に認可された。1942 年の機甲師団は 1 個砲兵隊をその戦車連隊とベルサリエリ連隊のそれぞれに認可されていた、そして、2 個がさらに ( 追加の分隊を加えて ) その砲兵連隊に認可されていた。1943 年後にドイツは自軍で使用するため 20/65 を生産し続けた。20/65 砲兵隊は 2 門の分隊 4 個から成っていた。

†着架状態の射撃を使用する時、カウンター LF 面の砲身長修整 (C4.1) が To Hit のために使用される；基本 To Kill ナンバーは、それでも、今まで通り脱架面の口径サイズと長さを使用して決める。

† Date と RF は北アフリカでの使用に対し 40 年 6 ～ 41 年 5 月 (1.2)、41 年 6 月～ 42 年 4 月 (1.1)、そして、42 年 5 月～ 43 年 5 月 (1.0)。東アフリカに対し 40 年 6 月～ 41 年 6 月 (1.5)、そして、41 年 7 ～ 11 月 (1.6)。ロシアに対し 41 年 8 月～ 43 年 1 月 (1.2)、43 年 2 月 (1.4)、そして、43 年 3 月 (1.6)。他の場所で 40 年 6 月～ 43 年 11 月 (1.3)、43 年 12 月 (1.4)、1944 年 (1.3)、そして、1945 年 (1.3；ファシストの使用だけ )。

関連項目イタリア砲兵器注釈 A、C、N。




**18. Cannone-aa da 75/39：**これは戦前のヴィカース AA 砲でドイツにより 1940 年の西部戦線で捕獲されいた。後にドイツは 54 門をイタリアへ引渡し、イタリアはロシアで AT 砲として使用した、その戦域の各師団が ( なにも与えられなかった "Vicenza"( ヴィチェンツァ ) 占領師団を除いて )6 個の砲兵隊を受取っていた。

†この砲の AP To Kill 基本ナンバーは "16" である — だから、"AP TK#: 16" でカウンターに示されている。

† RF はロシアでの使用に対し 42 年 7 月～ 43 年 1 月で 1.3、43 年 2 月で 1.5、そして、43 年 3 月で 1.6。

**19. Cannone-aa da 75/46：**この AA 砲を取り組む設計が 1926 年に始まり、1934 年に採用された。1940 年中頃に 76 門が軍に使用されていた ( リビアの 8 門とイタリア領東アフリカの 24 門を含む )、しかし、1942 年後半までに 226 門しか生産されていなかった。2 個の 75/46 大隊 (*gruppi*) が 1941 年、CSIR(*Corpo di Spedizione Italiano in Russia*；イタリア ロシア遠征軍団 ) に含まれていた；1942 年のその前線で、第 8 軍が 5 個のこうした大隊を含んでいた。75/46 はかつて、最も効果的に実施された役割である AT 砲として 2 役を務めるように求められていた。1943 年 9 月、ドイツが、東部戦線を含んでかなりの 75/46 を使用した。

† Date と RF は北アフリカでの使用に対し 1942 年より前で 1.5、そして、42 年 1 月～ 43 年 5 月で 1.4、他の場所で 40 年 6 月～ 43 年 9 月で 1.5、そして、1944 ～ 45 年で 1.6( ファシストの使用だけ )。

関連項目イタリア砲兵器注釈 N。

**20. Cannone-aa da 90/53：**この砲は 1939 年に作られた；1940 年 6 月までに 1,600 門が指示されたにもかかわらず何一つ使用できるものがなかった。優れた兵器だった、ドイツ 88㎜と色々類似点があった。ドイツの砲のそれを超えた射程、そして、ほぼ同等の弾丸貫通力。あいにく、イタリアにとって 90/53 は決して十分な数量で使用できなかった、1943 年 7 月にわずかに 539 門しか使用できなかった — その中の大多数が固定砲床にあった。90/53 はロシアで全く使用されなかった。砲兵隊は 4 門から成っていた。イタリア降伏の後、ドイツは全ての 90/53 を押収するだけでなく自軍で使用するため生産を続けた；1944 年の終りに、ドイツは 315 門を使用していた。

† Date と RF は 42 年 5 月～ 43 年 9 月 (1.5)*[ 例外：ロシアでは適用しない ]*、43 年 10 ～ 11 月 (1.6)、そして、1944 ～ 45 年で 1.6( ファシストの使用だけ )。

関連項目イタリア砲兵器注釈 N、~~R~~。

## イタリア 複数に適用できる砲兵器注釈 (ITALIAN MULTI-APPLICABLE ORDNANCE NOTES)

A. この兵器を駄載してよい (G10.)。

B. この砲は捕捉目標を使用してはいけない (C6.5-.58) — だから、"Acq. NA" でカウンターに示されている。

C. この砲を *Autocarro L[ 例外：65/17 用に Autocarro M；75/27 用に Autocarro P]* でポーテ (C105) 運搬してよい。37L AT( だけ ) が所有する操作班によりポーテである間に射撃してよい、でも、車両の " 後方 "VCA を通してだけ射撃してよい。

41 年 8 月より前の DYO シナリオで、イタリアのプレイヤーはポーテできる砲のために (1.4/1.441 に従って ) *牽引*車両を購入してはいけない；とはいえ、プレイヤーはポーテ車両をその砲のため購入してよい、それは自動車化ユニット (1.4) のため 10%の費用を使った場合、あるいは、シナリオが北アフリカで設定されている場合の両方、又はどちらか一方である場合である。そうでなければ、プレヤーはワゴンだけを使用して 41 年 8 月より前のシナリオで砲を牽引してよい。

H. HEAT は 1942 年 9 月に使用可能になる — だから、上付きで "S2+" と示されている。

N. この兵器は北アフリカでかつて 40 年 6 月～ 43 年 5 月に、それ自体に定められた Date の範囲内で使用された。

~~X~~. この砲はロシアで使用されない。

| 1.5 イタリア OBA 使用可能表 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 年代 | 40-41/7 | 41/8 -42/4 | 42/5 - 43/11 | 42/12-45/5[2] |
| DR: 2<br>BPV： | 150+<br>124 s | 150+<br>124 s | 150+<br>124 s | 150+[1]<br>100 |
| 3 | 150+<br>122 | 150+<br>122 | 70+<br>49 | 100+<br>83 s |
| 4 | 80+M<br>73 s* | 70+<br>49 | 150+<br>122 | 70+<br>49 |
| 5 | 70+<br>49 | 100+<br>81 | 80+M<br>73 s* | 80+M<br>73 s* |
| 6 | 80+M<br>73 s* | 80+M<br>73 s* | 70+<br>51s | 70+<br>51s |
| 7 | 70+<br>49 | 70+<br>49 | 80+M<br>73 s* | 80+M<br>73 s* |
| 8 | 70+<br>49 | 80+M<br>73 s* | 70+<br>49 | 70+<br>51s |
| 9 | 100+<br>81 | 70+<br>49 | 100+<br>83 s | 100+<br>83 s |
| 10 | 60+<br>33 | 100+<br>83 s | 100+<br>81 | 100+<br>81 |
| 11 | 100+<br>83 s | 70+<br>49 | 80+M<br>73 s* | 80+M<br>73 s* |
| 12 | 70+<br>49 | 70+<br>49 | 70+<br>49 | 70+<br>51s |
| 最大 BPV： | 124 | 124 | 124 | 122 |

M：大隊迫撃砲 OBA(C1.22)。

s：Smoke を発射可能。

＊：IR 発射可能 (E1.93)

1.：43 年 12 月～ 44 年に対する使用可能性は*ファシスト*イタリアへだけ適用される。その時期の連合軍側イタリアは再びサイ振りをしなければならない。

2.：1945 年の使用可能性は*ファシスト*イタリアへだけ適用される。1945 年の連合軍側イタリアはイギリス PTO でない使用可能表の "1945" 欄を使用する、当然、イギリスの無線機 / 野戦電話 ( 捕獲でないとしてそれらは扱われる )、そして、OBA カード / チット 割り当ても "1945" 欄を使用する。

| 1.83 イタリア SW 割り当て表[1] | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | LMG | MMG | HMG | ATR[2] | LT. MTR | FT[3] | DC[3] |
| 7/41[4] まで | 7 | 13 | 18 | —/16[5] | 6 | 3 | 1 |
| 41/8 ～ 42/4 | 6 | 12 | 17 | —/15[6] | 8[7] | 3[8] | 1 |
| 42/5 ～ 43/9 | 6 | 12 | 17 | 8[9]/14[6] | 9[7] | 3[8] | 1 |
| 43/10 ～ 44 | 6 | 12 | 17 | —/18 | 9 | 3 | 1 |
| 1945[10] | 6 | 12 | 17 | —/16 | 9 | 3 | 1 |
| *ゲーム#* | *12* | *6* | *6* | *6/6* | *6* | *4* | *6* |

1：SW 登録簿に記載された分隊の相当数に従って割り当てられる。

2：ATR/20L ATR。

3：突撃工兵相当数に従って割り当てられる；1.22 を参照。

4：+3 エリトリア *[ 例外：ATR と FT は適用されない ]*。

5：シナリオが北アフリカで設定された場合にだけ使用できる。

6：シナリオが北アフリカで設定された場合にだけこの数字が 1 減らされる。

7：シナリオが北アフリカで設定された場合にこの数字を倍にする。購入された 3-4-7 15 個毎に ( 切捨て )、1 つの軽迫撃砲が 20L ATR と代えてよい ( 受取られる軽迫撃砲数の合計まで )。

8：Vs ロシア ( ロシアのパルチザンでない )、この数字が 1 減らされる。

9：20L ATR 以外が Vs ロシア / ロシアのパルチザンでないでの受取ってよい、イタリアのプレイヤーは自身の OB の ATR の中の *1 タイプ*だけ含めた良い。

10：1945 年の使用可能性は*ファシスト*イタリアだけに適用される。連合軍側イタリアはイギリス割り当て表の 44-45 行を使用すしてイギリス SW を受取る、捕獲でない用にそれらを扱う。

**エッラタ：**H142B の**連合軍中小国支援兵器割り当て、及び ELR 表**へ以下の行を加えなさい。

| 国籍 | LG | ELR | LMG | MMG | HMG | .50 HMG | LT. MTR | ATR | DC | FT |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| エチオピア | 9 | 3 | 10 | 16 | 20 | — | 12[9] | 22[7] | 3 | — |

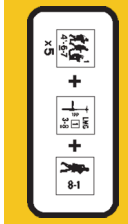
(Toon(YN) 2023.06.07)

# イタリア 車両 希少性係数チャート (ITALIAN VEHICLE RARITY FACTOR CHART)

0.9 | 1.0 | 1.1 | 1.2 | 1.3 | 1.4 | 1.5 | 1.6

| Name | 1940 | | | | | | | 1941 | | | | | | | | | | | | 1942 | | | | | | | | | | | | 1943 | | | | | | | | | | | | 44 | 45 | Name |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 4 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | | | |
| L5/21 *Tt* [France; Sicily] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | L5/21 *Tt* [France; Sicily] |
| L5/30 *Tt* [France; Sicily] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | L5/30 *Tt* [France; Sicily] |
| L3/35 *Tt* [N. Africa; Sicily] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | L3/35 *Tt* [N. Africa; Sicily] |
| [E. Africa; Italy] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | a | [E. Africa; Italy] |
| [Russia] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [Russia] |
| [France; Balkans] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | a | [France; Balkans] |
| L3 aa *Tt* [as per L3/35] | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | b | | | | a | a | L3 aa *Tt* [as per L3/35] |
| L3 cc *Tt* [N. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | L3 cc *Tt* [N. Africa] |
| L3 Lf *Ttv* [N. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | L3 Lf *Ttv* [N. Africa] |
| [E. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [E. Africa] |
| [France; Balkans] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [France; Balkans] |
| L6/40 *LT* [N. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | L6/40 *LT* [N. Africa] |
| [Russia; Italy] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | a | [Russia; Italy] |
| [Yugoslavia] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [Yugoslavia] |
| M11/39 *MT* [N. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | M11/39 *MT* [N. Africa] |
| [E. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [E. Africa] |
| M13/40 *MT* [N. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | M13/40 *MT* [N. Africa] |
| [Balkans; Italy] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | a | [Balkans; Italy] |
| M14/41 *MT* [N. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | M14/41 *MT* [N. Africa] |
| M15/42 *MT* [Italy] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | a | M15/42 *MT* [Italy] |
| MR/35(f) *MT* [Sicily] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | MR/35(f) *MT* [Sicily] |
| SMV M40 75/18 *AG* [N. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | SMV M40 75/18 *AG* [N. Africa] |
| SMV M41 75/18 *AG* [N. Af.; Italy] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | a | SMV M41 75/18 *AG* [N. Af.; Italy] |
| SMV M42 75/18 *AG* [Italy] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | SMV M42 75/18 *AG* [Italy] |
| SMV M42 75/32 *AG* [Italy] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | a | SMV M42 75/32 *AG* [Italy] |
| SMV M43 105/25 *AG* [Italy] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | SMV M43 105/25 *AG* [Italy] |
| SMV L40 47/32 *TD* [Russia] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | SMV L40 47/32 *TD* [Russia] |
| [Tunisia; Sicily; Italy] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | a | [Tunisia; Sicily; Italy] |
| SMV M41M 90/53 *TD* [Sicily] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | SMV M41M 90/53 *TD* [Sicily] |
| AS 42 *SC* [N. Africa; Sicily; Italy] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | a | AS 42 *SC* [N. Africa; Sicily; Italy] |
| AS 42 aa *SC* [N. Africa; Sicily; Italy] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | a | AS 42 aa *SC* [N. Africa; Sicily; Italy] |
| AS 42 cc *SC* [N. Africa; Sicily; Italy] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | a | AS 42 cc *SC* [N. Africa; Sicily; Italy] |
| Lince *SC* [Italy] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | a | Lince *SC* [Italy] |
| Lancia 1ZM *AC* [E. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | Lancia 1ZM *AC* [E. Africa] |
| Fiat 611A *AC* [E. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | Fiat 611A *AC* [E. Africa] |
| Fiat 611B *AC* [E. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | Fiat 611B *AC* [E. Africa] |
| AB 40 *AC* [N. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | AB 40 *AC* [N. Africa] |
| AB 41 *AC* [N. Africa; Sicily; Italy] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | a | AB 41 *AC* [N. Africa; Sicily; Italy] |
| [Russia] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [Russia] |
| [Balkans] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | a | [Balkans] |
| Name | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 44 | 45 | Name |
| | 1940 | | | | | | | 1941 | | | | | | | | | | | | 1942 | | | | | | | | | | | | 1943 | | | | | | | | | | | | | | |

a: ファシストイタリアだけ。連合軍側イタリアはノルウェーの使用は特定のイギリス車両を使用する；イタリア車両注釈の序説を確認しなさい　b: 対応する (Date とエリアに向けた )L3/35 の RF よりも 0.4 高い ( 最大 1.6)。



## イタリア 車両 希少性係数チャート (ITALIAN VEHICLE RARITY FACTOR CHART)

0.9 1.0 1.1 1.2 1.3 1.4 1.5 1.6

| Name | 1940 | | | | | | | 1941 | | | | | | | | | | | | 1942 | | | | | | | | | | | | 1943 | | | | | | | | | | | | 44 | 45 | Name |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 4 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | | | |
| Autocannone 65/17(b) *SPAtr* [N. Af.] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | Autocannone 65/17(b) *SPAtr* [N. Af.] |
| Autocannone 20/65(b) *SPAtr* | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | Autocannone 20/65(b) *SPAtr* |
| Autocannone 75/27 CK *AAtr* [N. Af.] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | Autocannone 75/27 CK *AAtr* [N. Af.] |
| Autocannone 90/53 *AAtr* [N. Af.; Sicily] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | Autocannone 90/53 *AAtr* [N. Af.; Sicily] |
| Autoprotetto S37 [Russia] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | Autoprotetto S37 [Russia] |
| [Balkans; Italy] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | a | [Balkans; Italy] |
| TL 37 *tr* [N. Africa; ETO*] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | TL 37 *tr* [N. Africa; ETO*] |
| [*Balkans] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | a | [*Balkans] |
| [E. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [E. Africa] |
| TM 40 *tr* [N. Africa; ETO*] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | TM 40 *tr* [N. Africa; ETO*] |
| [*Balkans] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | a | [*Balkans] |
| TP 32 *tr* [N. Africa; ETO*] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | TP 32 *tr* [N. Africa; ETO*] |
| [*Balkans] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [*Balkans] |
| [E. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [E. Africa] |
| Autocarretta *tr* [N. Af.; Russia; Italy] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | Autocarretta *tr* [N. Af.; Russia; Italy] |
| [eslewhere *EXC: E. Africa*] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | a | [eslewhere *EXC: E. Africa*] |
| Fiat 508 MC *tr* | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | Fiat 508 MC *tr* |
| Autocarro L *tr* [N. Af.; Russia; Italy] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | Autocarro L *tr* [N. Af.; Russia; Italy] |
| [elsewhere*] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | [elsewhere*] |
| [*E. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [*E. Africa] |
| Autocarro M *tr* [N. Af.; Russia; Italy] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | Autocarro M *tr* [N. Af.; Russia; Italy] |
| [elsewhere*] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | [elsewhere*] |
| [*E. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [*E. Africa] |
| Autocarro P *tr* [N. Af.; Russia; Italy] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | Autocarro P *tr* [N. Af.; Russia; Italy] |
| [elsewhere*] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | [elsewhere*] |
| [*E. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [*E. Africa] |
| Name | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | | | |
| | 1940 | | | | | | | 1941 | | | | | | | | | | | | 1942 | | | | | | | | | | | | 1943 | | | | | | | | | | | | 44 | 45 | |

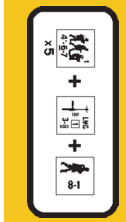
a: ファシストイタリアだけ。連合軍側イタリアはノルウェーの使用は特定のイギリス車両を使用する；イタリア車両注釈の序説を確認しなさい

## イタリア 砲兵器 希少性係数チャート (ITALIAN ORDNANCE RARITY FACTOR CHART)

0.9 1.0 1.1 1.2 1.3 1.4 1.5 1.6

| Name | 1940 | | | | | | | 1941 | | | | | | | | | | | | 1942 | | | | | | | | | | | | 1943 | | | | | | | | | | | | 44 | 45 | Name |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 4 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | | | |
| Mortaio da 81/14 [N. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | Mortaio da 81/14 [N. Africa] |
| [E. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [E. Africa] |
| [Russia] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [Russia] |
| [elsewhere] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | [elsewhere] |
| Cannone-cc da 37/54 [N. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | Cannone-cc da 37/54 [N. Africa] |
| Cannone da 47/32 [N. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | Cannone da 47/32 [N. Africa] |
| [Russia] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [Russia] |
| [elsewhere *EXC: E. Africa*] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | [elsewhere *EXC: E. Africa*] |
| Name | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | | | |
| | 1940 | | | | | | | 1941 | | | | | | | | | | | | 1942 | | | | | | | | | | | | 1943 | | | | | | | | | | | | 44 | 45 | |

a: ファシストイタリアだけ。連合軍側イタリアはノルウェーの使用は特定のイギリス車両を使用する；イタリア車両注釈の序説を確認しなさい



## イタリア 砲兵器 希少性係数チャート (ITALIAN VEHICLE RARITY FACTOR CHART)

0.9 | 1.0 | 1.1 | 1.2 | 1.3 | 1.4 | 1.5 | 1.6

| Name | 1940 | | | | | | | 1941 | | | | | | | | | | | | 1942 | | | | | | | | | | | | 1943 | | | | | | | | | | | | 44 | 45 | Name |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 4 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | | | |
| Cannone da 65/17 [N. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | Cannone da 65/17 [N. Africa] |
| [E. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [E. Africa] |
| [Russia] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [Russia] |
| [elsewhere] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | a | [elsewhere] |
| Cannone da 70/15 [E. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | Cannone da 70/15 [E. Africa] |
| Obice da 75/13 [E. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | Obice da 75/13 [E. Africa] |
| [Russia] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [Russia] |
| [*elsewhere EXC: N. Africa*] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | [*elsewhere EXC: N. Africa*] |
| Cannone da 75/27 [E. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | Cannone da 75/27 [E. Africa] |
| [elsewhere] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | a | [elsewhere] |
| Obice da 75/18 [N. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | Obice da 75/18 [N. Africa] |
| [Russia] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [Russia] |
| [elsewhere] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | [elsewhere] |
| Cannone da 75/32 [Russia; Italy] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | Cannone da 75/32 [Russia; Italy] |
| Obice da 100/17 [N. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | Obice da 100/17 [N. Africa] |
| [E. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [E. Africa] |
| [Russia] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [Russia] |
| [elsewhere] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | [elsewhere] |
| Cannone da 105/28 [N. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | Cannone da 105/28 [N. Africa] |
| [E. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [E. Africa] |
| [Russia] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [Russia] |
| [elsewhere] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | [elsewhere] |
| Obice da 149/13 [N. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | Obice da 149/13 [N. Africa] |
| [E. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [E. Africa] |
| [Russia] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [Russia] |
| [elsewhere] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | a | [elsewhere] |
| Cannone da 149/35 [N. Africa; Sicily] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | Cannone da 149/35 [N. Africa; Sicily] |
| [Balkans] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [Balkans] |
| Cannone da 149/40 [N. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | Cannone da 149/40 [N. Africa] |
| [Russia] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [Russia] |
| Cannone-mitr. da 20/65 [N. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | Cannone-mitr. da 20/65 [N. Africa] |
| [E. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [E. Africa] |
| [Russia] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | [Russia] |
| [elsewhere] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | [elsewhere] |
| Cannone-aa da 75/39 [Russia] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | Cannone-aa da 75/39 [Russia] |
| Cannone-aa da 75/46 [N. Africa] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | Cannone-aa da 75/46 [N. Africa] |
| [elsewhere] | | | | | | | | | | | | | b | b | b | b | b | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | a | [elsewhere] |
| Cannone-aa da 90/53 [*EXC: Russia*] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | a | a | Cannone-aa da 90/53 [*EXC: Russia*] |
| Name | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | | | Name |
| | 1940 | | | | | | | 1941 | | | | | | | | | | | | 1942 | | | | | | | | | | | | 1943 | | | | | | | | | | | | 44 | 45 | |

a: ファシストイタリアだけ。連合軍側イタリアはノルウェーの使用は特定のイギリス車両を使用する；イタリア車両注釈の序説を確認しなさい　b: 対応する (Date とエリアに向けた )L3/35 の RF よりも 0.4 高い ( 最大 1.6)。

2021 Multi-Man Publishing, Inc.



索引に戻る

©2020 Multi-Man Publishing, Inc.